

人間科学部

学修ガイドブック

2026

SCHOOL of HUMAN SCIENCES

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン 「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

人 間 科 学 部

学修ガイドブック

2026

令和8年度

専 修 大 学

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは、みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み、紛失することのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間科学部の心理学科、社会学科がそれぞれに規定する所定の卒業要件単位を学則で定める在籍期間中に修得することによって、幅広い教養と豊かな人間性を有し、専門分野に関しては、実験・観察・調査を軸として、科学的・実証的に人間の理解を目指し、人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム（因果関係）を解明する領域を総合的に学び、主体的に社会を支え活動できる能力を養い、高度な専門性を身に付けた者に対し、心理学科では学士（心理学）の、社会学科では学士（社会学）の学位を授与します。

心理学科

- (1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身に付け、多様な価値観を受け入れた上で、社会生活上の諸課題に取り組むことができる。(知識・理解、態度・志向性)
- (2) 心理学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を説明することができる。(知識・理解)
- (3) 人間行動の理解のために、研究機器の利用方法をはじめとしてさまざまな実証的研究の手法を活用することができる。(汎用的技能)
- (4) 現代心理学の持つ批判的、分析的かつ主体的な人間行動理解に基づき、知見や技能を活用することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (5) 未解決の問題を発見し、それを適切な方法で解決することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)

社会学科

- (1) 幅広い一般知識として、社会学の専門教育を超えた、文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を理解し、説明することができる。(知識・理解)
- (2) 社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を体系的に理解し、社会的行為と諸制度との相互関係を社会的に説明できる。(知識・理解)
- (3) 実証的調査の方法を用いて量的・質的なデータを収集・分析し、グループで作業する能力とコミットメントを身につけ、自らの思考を文章や口頭によって分かりやすく他者に伝えることができる。(汎用的技能)
- (4) 社会における実践的な課題を発見し、上記の能力を総合的に駆使して理論的に思考・分析し、社会を構想し提言することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (5) 諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者に寛容な態度で接するとともに、社会の成員としての自己を理解し、自分が得た知識や価値観を反省し相対化して行動することができる。(態度・志向性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業を開講します。

心理学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として、科目区分「社会知性基盤科目」には、「S i 基礎科目」、「S i 応用科目」を配置しています。
- ・文化、歴史、社会、自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し、説明することができる能力を養成するため、科目区分「教養科目」には、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ、活用することができる能力を養成するため、科目区分「外国語科目」には、「英語」、「英語以外の外国語」、「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって、学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため、科目区分「単位互換科目」を配置しています。
- ・科目区分「専門科目」には、以下の科目を配置しています。
 - ①心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力と多様な価値観を受け入れ、主体的に学ぶ自己設計・管理能力を養成するための科目を配置しています。
 - ②心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力とそれらの知識の統合と活用する能力や論理的思考力を養成するための科目を配置しています。
 - ③心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力とそれらの知識の統合と活用する能力や論理的思考力に加えて問題解決能力についても養成するための科目を配置しています。
 - ④心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力を養成するための科目を配置しています。
 - ⑤倫理観と社会的責任と論理的思考力を持って、これまで学んだ心理学の知識の統合と活用に取り組み、実際の問題解決を行う能力を養成するための科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

1. 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践する教育として、「S i 基礎科目」は主に初年次を対象に、「S i 応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち、自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し、必修科目として、1年次に全員が学びます。

- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データサイエンス入門」, 「データサイエンス実践」, 「A I 基礎」, 「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」および「S i ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10 単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4 単位以上（外国人留学生は日本語8 単位以上）、英語以外の外国語から4 単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」, 「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。

2. 専門科目

- ・科目区分「専門科目」は、以下のように実施され、必修科目32 単位、選択必修科目32 単位、選択科目20 単位以上修得することを卒業要件としています。
- ①心理学専門科目に関連した言語運用能力の養成は、「心理学講読1」において実施します。
- ②心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力と多様な価値観を受け入れ、主体的に学ぶ自己設計・管理力の養成は、必修科目として1 年次に「心理学基礎実験1（心理学実験）」, 「心理学概論」, 「臨床心理学概論」, 2 年次に「心理学基礎実験2」において実施するほか、「心理学研究法」をはじめとする20 の選択必修科目と「公認心理師の職責」をはじめとする3 つの選択科目において実施します。
- ③心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力、知識の統合と活用する能力、論理的思考力の養成は、選択必修科目の「心理学の思想と歴史1・2」, 「基礎心理学特殊講義A」をはじめとする10 の選択科目において実施します。
- ④心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力、知識の統合と活用する能力、論理的思考力、問題解決能力の養成は、「障害者・障害児心理学」をはじめとする8 つの選択必修科目と、の20 の選択科目において実施します。
- ⑤心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力の養成は、必修科目として1 年次に「心理学データ解析基礎1（心理学統計法）・2」を実施するほか、「心理学コンピュータ実習1」をはじめとする4 つの選択必修科目において実施します。
- ⑥倫理観と社会的責任、論理的思考力、心理学の知識の統合と活用する能力、問題解決力の養成は、必修科目として3 年次に「心理学実験演習1」, 4 年次に「心理学実験演習2」と「卒業論文」において実施します。

(3) 教育内容・方法

1. 社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思

考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i 基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、STEAM教育等を通じて養成する内容とします。

2. 教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

3. 外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

4. 単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

5. 専門科目

心理学専門科目に関連した言語運用能力をつけることを目的とする「心理学講読1」は、演習形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力、多様な価値観を受け入れ、主体的に学ぶ自己設計・管理能力をつけることを目的とする必修科目の「心理学概論」、「臨床心理学概論」のほか、「心理学研究法」をはじめとする20の選択必修科目と「公認心理師の職責」をはじめとする3つの選択科目は講義形式とします。少人数のグループで実施し様々な実証的研究の手法を修得する、必修科目の「心理学基礎実験1（心理学実験）・2」は実験・実習形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力をつけることを目的とする選択必修科目の「心理学の思想と歴史1・2」，「基礎心理学特殊講義A」をはじめとする10の選択科目は講義形式とします。

心理学に関する専門分野の基礎的な知識を理解して説明する能力，知識の統合と活用する能力，論理的思考力，問題解決能力をつけることを目的とする8つの選択必修科目は講義形式とし，選択科目の「情報処理心理学実習1・2」は実験・実習形式とします。

心理学の研究方法を理解するための情報・データリテラシー能力をつけることを目的とする必修科目の「心理学データ解析基礎1（心理学統計法）・2」と「心理学コンピュータ実習1」をはじめとする4つの選択必修科目は実験・実習形式とします。

倫理観と社会的責任，論理的思考力，心理学の知識の統合と活用する能力，問題解決力をつけることを目的とする「心理学実験演習1・2」，「卒業論文」では，少人数でのゼミ形式の授業に参加することで心を研究する学問知とフィールド知の双方向性の理解を目指すため，演習形式とします。

社会学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「社会知性基盤科目」には，「Si基礎科目」，「Si応用科目」を配置しています。
- ・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を体系的に理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「保健体育系科目」を配置しています。
- ・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」を配置しています。
- ・他大学との特色ある授業科目の相互開放によって，学生の交流および多様な学びに触れる機会を提供するため，科目区分「単位互換科目」を配置しています。
- ・「専門科目」には，第一に，専門知識を理解して活用する力，論理的思考力，問題解決力，多様な価値観を受け入れる力，倫理観と社会的責任，自己設計・管理力を養成するため，社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた基礎的な理論とともに，社会的行為と制度を理解するための科目を配置しています。

第二に，専門知識を理解して活用する力，論理的思考力，問題解決力，多様な価値観を受け入れる力，倫理観と社会的責任，自己設計・管理力に加えて，情報・データリテラシーを養成するために，社会調査の技法を身につけるとともに，理論的・実証的研究の方法を活用して，社会における実践的な課題を分析する能力を修得するための科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ・高等学校段階の教育との接続および大学での学修の基盤となる能力を養成する「社会知性基盤科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する教育として「Si基礎科目」は主に初年次を対象に，「Si応用科目」は2年次以上を対象に実施します。
- ・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成

は、「社会知性基盤科目（Si 基礎科目）」の「専修大学入門ゼミナール」において実施し、必修科目として1年次に全員が学びます。

- ・情報・データリテラシーの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「データサイエンス入門」,「データサイエンス実践」,「A I 基礎」,「データサイエンス活用演習」において実施します。
- ・多様な価値観の受け入れの基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 基礎科目）」の「キャリア入門」および「グローバルスタディ」において実施します。
- ・知識の統合と活用の基礎力養成は、「社会知性基盤科目（S i 応用科目）」の「分野横断科目」および「S i ゼミナール」において実施します。
- ・幅広い領域の知識・理解の修得は、「教養科目」において実施し、10 単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・言語運用能力のうち、母語以外の言語運用能力の養成は、「外国語科目」において実施し、英語から4 単位以上（外国人留学生は日本語8 単位以上）、英語以外の外国語から4 単位以上修得することを卒業要件としています。
- ・「単位互換科目」の「単位互換1」,「単位互換2」および「単位互換3」において、他大学等の授業科目を履修することができます。
- ・専門分野の基礎的な知識・理解、知識を統合して活用する力、論理的思考力、問題解決力、多様な価値観を受け入れる力、倫理観と社会的責任、自己設計・管理力の養成は、主に「社会学原論」をはじめとする必修科目（9 科目 28 単位必修）、社会学の各専門領域に関する選択必修科目（17 科目 34 単位選択必修）、社会学の隣接諸科学の選択科目（22 単位選択）において実施します。
- ・社会学科専門科目に関連した言語運用能力のうち、体系的な専門知識にもとづいて自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達する能力の養成は、主に各年次に配置されたゼミナール形式の授業および「卒業論文」において実施します。また、情報・データリテラシーの養成は、主に社会調査法科目群（「社会調査の基礎」,「調査設計と実施方法」,「データ分析法実習」,「統計学実習」,「多変量解析法実習」,「質的分析法」,「社会調査実習」）において実施します。

(3) 教育内容・方法

1. 社会知性基盤科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は、初年次教育の少人数演習形式とします。

その他のS i 基礎科目は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため、その基礎となる内容と、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

「分野横断科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を、S T E A M教育等を通じて養成する内容とします。

2. 教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」は、特に、文化、歴史、社会、自然など幅広い教養を身につける内容とします。また、本学科において理系的思考方法は有益であるという趣旨で、「自然科学系科目」における「あなたと自然科学」は1年次の必修科目とします。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなどを身につける内容とします。

3. 外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は、一部の授業科目を除き、演習形式とします。

1年次に履修する英語は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は、多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また、異文化・多文化への理解を深め、世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」、「言語文化研究」は、講義形式とします。

4. 単位互換科目

他大学の学生との交流および多様な学びに触れることを目的とする「単位互換科目」は、個々の学生の意欲や関心に応じた多様な学修へのニーズに対応します。

5. 専門科目

専門科目では、教育課程の編成および実施の方針にもとづき、以下の科目区分および内容の授業科目を配置し、各授業科目の内容に応じた授業形態（講義、演習、実験・実習）とします。

- ・専門科目では、社会学のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得するため、社会学の専門教育課程編成を構成する三つの系（文化・システム系、生活・福祉系、地域・エリアスタディーズ系）に即しつつ、実証的かつ体系的な学修、研究指導をおこないます。そうした方針のもと、「文献研究」、「専門ゼミナールA・B」と「卒業論文」は必修科目とします。また、配当年次については、科目間の関係や履修の順序などに配慮して体系的な履修が可能となるように配当しています。
- ・社会調査に主体的、能動的にのぞむのにふさわしい知識や能力を身に付けるため、社会調査法科目群を体系的に配置します。特に調査法科目群の体系的学びの集大成として、社会的行為や制度について科学的・実証的に研究する方法を修得するため、社会調査の実習授業（「社会調査実習」）を少人数指導の形式で3・4年次に開講します。より高度な調査技法を習得するプログラムを選択科目として用意します。「社会調査実習」では、自らの思

考を文書によって伝える技術・表現を育成するため、調査の成果を報告書として作成します。

- ・社会学の理論や方法論についての理解を深め、かつ、その知識を文書や口頭で伝え、議論する力を育成するため、文献の精読やディスカッションを中心とする演習授業（「文献研究」）を少人数指導の形式で開講します。
- ・専門科目を中心とする教育内容を、総合的に駆使して、社会における実践的な課題について思考し、分析することができる能力を修得するため、「専門ゼミナールA・B」を少人数指導の形式で開講します。社会学科の全学生は、2年次の後期に、各自の関心や問題意識にもとづき所属ゼミナール（担当教員）の選択を行ない、3年次の「専門ゼミナールA」と4年次の「専門ゼミナールB」において、同じ教員による一貫した指導を受けながら、各自が主体的に研究に取り組み、卒業論文を執筆します（必修）。



人間科学部長
下斗米 淳

はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私たち人間科学部の教職員一同、皆さんをお迎えできたことを大変うれしく思います。志を抱き、あるいはこれから志を立てようと門をくぐられた人間科学部は、2010年に開設された学部です。従いまして、皆さんは17期生になります。

皆さんはこれまでの長い「児童・生徒」の時代から「学生」と呼ばれる時代を迎えられました。この児童・生徒そして学生という呼び方は、学校教育法に定められた教育課程に従って区別されています。しかし語源をみますと、児童は心身がまだ未発達なこどもという意味、生徒は芽を出したばかりで成長に向けて歩みだしたことを意味する言葉です。こうした時代から今、皆さんは学生になりました。学生という言葉はもともと“がくしょう”と読まれていて、学問をする人という意味です。すなわち、学生となった皆さんは、学問をするために生きていく人になったことになります。初等・中等教育を受けてきた中でも、学問をしてこなかったわけではないと思いますが、それでもこれまでのように手取り足取り「教わる」のではなく、大学では自分自身で問題意識を醸成させてその真理を探求する「学び」をすることになります。人間科学部の先生は、皆さん一人ひとりの問題意識を大切にしながら真理探究をお手伝いして、一緒に問題の答えを見いだすメイトのような存在になることでしょう。「主体的に学ぶ人」になって頂きたいと思います。

では、人間科学とは何か。この問いに対して皆さんがその答えを見いだすことにはなりますが、諸学問領域の狭間を埋めるためでもなければ、諸学問領域を総称するものでもありません。諸学問領域とは別の次元から、人間存在を考えていこうとする学問が人間科学であると言えます。人が社会を構成し、その社会により人はかたち作られています。このように人と社会は一方向ではなく相互に規定し合うものですから、人間科学部は、心理学と社会学の双方から人間存在を解き明かそうとしています。皆さんは学籍として心理学科・社会学科に所属することになりましたが、共に「人間科学を学ぶ人」になって頂きたいと思います。

この学修ガイドブックは、皆さんの「学び」についてのルールやガイドが書かれています。これからの4年間どのように真理探究をすすめるか、いかに皆さん一人ひとりの人間力を高めていくかを解説しています。また人間科学部の先生方から「学ぶ」皆さんへの願いを表したものもあります。新入生の皆さんにとっては、これからの4年間は心も身体も生涯の中で一番動ける時期であると思います。従って、大学内外で活動し、様々な課題に直面してはその解決をしていくことにはなりますが、これからのキャンパスライフにおいて核となる「学び」を着実に進めて頂けるよう、皆さんの傍らにこのガイドブックをおくようにして下さい。

人間科学部学生の皆さんは、おそらく「学び」にかなり手応えを感じていくことになると思います。皆さんには、その手応えを得ながら4年間を過ごして欲しいと思います。そして、自分らしさを大切にしながら、豊かな将来にするための基盤を構築して頂けることを願っています。

目 次

| | |
|---------------------------------------|----|
| 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） | 3 |
| 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） | 4 |
| はじめに | 11 |
| 第1章 卒業までに何を学ぶか | |
| I 大学の授業科目 | 17 |
| 1 専修大学の学士課程教育 | 17 |
| 2 専修大学の科目ナンバリング | 18 |
| 3 専修大学の数理・データサイエンス・AI教育 | 21 |
| 4 全学公開科目 | 23 |
| 5 授業科目の種類 | 23 |
| 6 単位制と履修年次指定制 | 24 |
| 7 単位の考え方と算定基準 | 24 |
| 8 オンライン授業による修得単位の上限について | 24 |
| II 大学卒業の要件と科目の履修 | 25 |
| 1 大学卒業の要件 | 25 |
| 2 履修計画の立て方 | 26 |
| 3 履修上限単位数 | 26 |
| 4 科目の再履修 | 27 |
| 5 履修モデル | 27 |
| III 科目の履修登録 | 28 |
| IV 試験と成績評価 | 29 |
| 1 試験の種類 | 29 |
| 2 受験上の注意, その他 | 30 |
| 3 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価 | 31 |
| 4 卒業論文 | 31 |
| 5 成績評価と通知 | 32 |
| V 卒業 | 34 |
| 1 卒業見込証明書の発行 | 34 |
| 2 卒業発表 | 34 |
| 第2章 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目の学び方 | |
| I 社会知性基盤科目 | 37 |
| 1 Si基礎科目 | 37 |
| 2 Si応用科目 | 41 |

| | | |
|--------------|---|-----|
| II | 教養科目 | 43 |
| | 人文科学基礎科目 | 43 |
| | 社会科学基礎科目 | 45 |
| | 自然科学系科目 | 46 |
| | 保健体育系科目 | 49 |
| III | 外国語科目 | 51 |
| | 英語 | 51 |
| | 英語以外の外国語 | 56 |
| | 海外語学研修 | 59 |
| | 留学プログラム | 60 |
| IV | 外国人留学生の特例履修科目 | 65 |
| V | 単位互換科目 | 66 |
| | | |
| 第3章 専門科目の学び方 | | |
| | 専門科目では何を学ぶか | 69 |
| 心理学科 | | |
| I | 心理学科の学生のために | 70 |
| 1 | 心理学科の特色 | 70 |
| 2 | 1年次でどう学ぶか | 70 |
| II | 卒業要件と科目の履修方法 | 71 |
| 1 | 卒業要件 | 71 |
| 2 | 科目の履修方法 | 72 |
| | 人間科学部心理学科 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧 | 80 |
| | 人間科学部心理学科(外国人留学生) 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧 | 81 |
| | 人間科学部心理学科専門科目一覧 | 82 |
| 社会学科 | | |
| I | 社会学科の学生のために | 83 |
| 1 | 社会学科の特色 | 83 |
| 2 | 1年次でどう学ぶか | 84 |
| II | 卒業要件と科目の履修方法 | 84 |
| 1 | 卒業要件 | 84 |
| 2 | 科目の履修方法 | 86 |
| | 人間科学部社会学科 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧 | 96 |
| | 人間科学部社会学科(外国人留学生) 社会知性基盤科目, 教養科目, 外国語科目, 単位互換科目一覧 | 97 |
| | 人間科学部社会学科専門科目一覧 | 98 |
| | 人間科学部専門科目一覧 | 99 |
| 第4章 資格課程について | | |
| I | 教職課程 | 103 |

| | | |
|-----|-------------------|-----|
| II | 司書・司書教諭・学校司書課程 | 104 |
| III | 学芸員課程 | 104 |
| IV | 大学院教職課程 | 105 |
| V | 科目等履修生 | 105 |
| 付 録 | | |
| I | 専修大学履修規程 | 109 |
| I | 専修大学定期試験規程 | 112 |
| II | 定期試験における不正行為者処分規程 | 116 |

第1章

卒業までに何を学ぶか

- I 大学の授業科目
- II 大学卒業の要件と科目の履修
- III 科目の履修登録
- IV 試験と成績評価
- V 卒 業

I 大学の授業科目

1. 専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんは、これからの4年間で専修大学で過ごし、所定の要件を満たすことで、各学科の専攻分野を付した「学士」として卒業し、社会への第一歩を踏み出します。この入学から社会への第一歩を繋ぐ「学び」の道りが学士課程であり、そこでの学びが「学士課程教育」です。この学士課程教育は、中学や高校の勉強とは異なります。大学では、一人ひとりが「学び」を選択し、自ら研鑽することが求められます。つまり、受動的・画一的な「学習」ではなく、能動的・自律的な「学修」が必要となります。

専修大学の学士課程教育は、「社会知性基盤科目」「教養科目」「外国語科目」「専門科目」「単位互換科目」の5つの科目区分で構成され、各学科の教育課程（カリキュラム）は、みなさんが目的に沿って学修を進め、「社会知性の開発」が実現できるように設計されています。これらの科目区分にはそれぞれの役割があり、それを理解することが学修成果の向上につながりますので、その概略を紹介します。

社会知性基盤科目では、学士課程教育の土台として、現代社会に不可欠な力を身につけます。1年次に学ぶ**専修大学入門ゼミナール**では、大学での学修と生活に適応し、大学で求められる基礎的知識と技能を修得します。この授業科目を通して、専修大学生としての心構えを得ることができでしょう。そのほかにも、英語による授業や海外研修などで世界に視野を広げる**グローバルスタディ**、複数の学問領域を横断的に学ぶ**分野横断科目**など、社会知性の基盤となる授業科目が設けられています。

教養科目は、「人文科学基礎科目」「社会科学基礎科目」「自然科学系科目」「保健体育系科目」で構成され、8学部20学科を擁する専修大学ならではの多彩な授業科目が開講されており、興味を持った分野を深く学ぶことができます。外国語科目は、「英語」「英語以外の外国語」「海外語学研修」で構成され、グローバルな教養を身につけます。外国語の重要性については、みなさんも十分に理解していることでしょう。専門科目は、それぞれの専攻分野について、基礎から応用へと段階的に学修できるように配置されています。これらの授業科目を履修することで、興味や関心を深化・発展させ、専門分野を多角的に考察し、社会に通用する力を養います。

このような専修大学の学士課程教育を通じて、所属する学部・学科に関わらず、社会に出てからも必要とされる知識や技能を学び、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを修得します。そして、一人ひとりの「学修」を将来の持続的成長につなげていくことになります。

みなさんの将来は、無限の夢と希望に満ち溢れています。しかし、内外の環境は急速に変化しており、それらに対応しつつ世界に飛翔するためには、国際的通用性を備え、先見性・創造性・独創性に富み、積極的に社会を支え、改善する意欲と能力が求められます。「学び」は生涯続く長い道のりです。高い志を持ち続け、今の時代を生き抜くために、専修大学での学びを通して人生の礎を築いてください。

2. 専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を示す仕組みです。専修大学では、科目ナンバリングを6桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」によって表しています。コースコードを活用することで、学びたい分野で開講されている授業科目とそのレベルを把握することができます。各授業科目の詳細な内容は、講義要項（シラバス）で確認することができるため、興味・関心を最大限に活かした、より体系的な履修計画を立てることができます。

なお、コースコードは講義要項（シラバス）に表示されるほか、単位修得学業成績証明書（和文・英文）および二種複合証明書に記載されます。コースコードは、年度毎に変更されるのではなく、原則として授業科目ごとに固定されています。

1. 「科目ナンバリング」の意義

みなさんが履修する授業科目を検討する際に、授業科目の分類や、標準的な学修の段階・順序を理解したうえで選択することが可能になります。

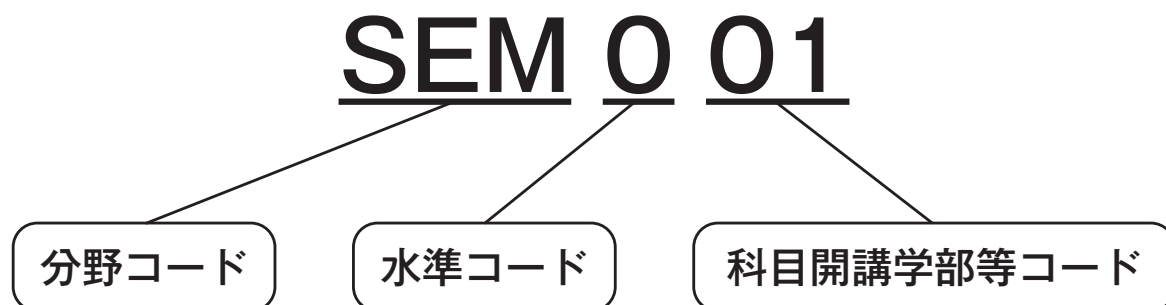
また、コースコードの構成は全学部で統一されているため、他学部で開講されている全学公開科目を履修する際にも、学問分野や授業科目の水準など、開講科目の位置づけを容易に把握することができ、主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

そして、コースコードは学外にも公開されているため、国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や、在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する際の単位互換などを円滑にすることが期待できます。

2. 「コースコード」の構成

「コースコード」は、「①分野コード（科目の学問分野を表す）」「②水準コード（科目のレベル、水準や難易度を表す）」「③科目開講学部等コード（開講学部や科目区分等）」から構成され、授業科目毎にコードが付されます。

たとえば、社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合、次のようなコースコードが付されます。



<各コードの意味>

①分野コード 専修大学で開講されている科目を113の分野に分け、3桁のアルファベットで表します。

| 科目の分野 | 分野コード | 科目の分野 | 分野コード | 科目の分野 | 分野コード |
|---------------|-------|----------------|-------|-----------------|-------|
| 会計学 | ACC | 地理学一般 | GGR | 数理科学 | MAT |
| アラビア語 | ARA | 情報学一般 | GIN | 学芸員課程 | MCP |
| 考古学 | ARC | グローバルスタディ | GLS | 経営情報学 | MNI |
| 芸術一般 | ARL | 心理学一般 | GPS | 金融・ファイナンス | MOF |
| 地域研究 | ARS | ギリシャ語 | GRK | 新領域法学 | NFL |
| 美学・芸術諸学 | ASA | アジア史・アフリカ史 | HAA | 自然科学一般 | NSC |
| 文化財科学・博物館学 | CAS | ヨーロッパ史・アメリカ史 | HEA | 海外語学研修 | OSS |
| 中国語 | CHI | 人文学一般 | HMN | 他大学等の授業科目 | OUC |
| 中国文学 | CHL | 思想史 | HOT | 財政・公共経済 | PFM |
| 民事法学 | CIL | 史学一般 | HSG | 哲学一般 | PHE |
| 臨床心理学 | CLP | 人文地理学 | HUG | 自然地理学 | PHG |
| 商学 | CME | 人間情報学 | HUI | 計算基盤 | POI |
| キャリア科目 | CRE | 人体病理学 | HUP | 政治学 | POL |
| 刑事法学 | CRL | 情報通信技術 | ICT | 精神神経科学 | PSS |
| 文化人類学・民俗学 | CUA | 国際開発問題 | IDG | 公法学 | PUL |
| 発達心理学 | DEP | 分野横断科目／融合領域科目 | IDS | 地誌学 | REG |
| デザイン学 | DES | 国際経済政策 | IEP | 宗教学 | RES |
| 経済史 | ECH | 国際法学 | ILA | ロシア語 | RUS |
| 経済政策 | ECP | インドネシア語 | IND | 社会科学一般 | SCS |
| 経済統計 | ECS | 国際関係論 | INR | ゼミナール | SEM |
| 理論経済学 | ECT | 情報システム | INS | 空間情報科学 | SIS |
| 教育心理学 | EDP | イタリア語 | ITL | 学校司書課程 | SLP |
| 教育工学 | EDT | 日本文化 | JAC | 特別支援教育 | SNE |
| 教育学 | EDU | 日本文学 | JAL | 社会学 | SOC |
| 英語一般 | ENG | 日本語教育 | JLE | 社会情報学 | SOI |
| 英語学 | ENL | 日本語学 | JLI | 社会法学 | SOL |
| 経済学・政治経済学 | EPE | 日本史 | JPH | 社会心理学 | SOP |
| 環境政策・環境社会システム | EPS | 日本語 | JPN | 特殊講義 | SPL |
| 英語 読む・聴く | ERL | ジャーナリズム | JRN | スペイン語 | SPN |
| 英語 話す・書く | ESW | コリア語 | KOR | スポーツ科学 | SPS |
| 倫理学 | ETH | ラテン語 | LAT | 社会システム工学 | SSE |
| 実験心理学 | EXP | 司書課程 | LCP | 統計科学 | STS |
| 美術史 | FAH | 図書館情報学・人文社会情報学 | LHS | SWP 科目 | SWP |
| 外国語教育 | FLE | 英米・英語圏文学 | LIE | 教職課程 | TCP |
| フランス語 | FRE | 文学一般 | LIG | 卒業論文・卒業研究 | THE |
| 基礎法学 | FUL | 言語学 | LIN | 司書教諭課程 | TLP |
| ジェンダー | GDE | 論理学 | LOG | 世界の言語と文化・言語文化研究 | WLC |
| ドイツ語 | GER | 経営学 | MAN | | |

- ②水準コード 学士課程4年間における各授業科目の位置づけ（学修段階）に基づいて、1桁の数字で表します。授業科目に設定されている配当年次とは異なりますので、3・4年次に水準の低い科目を履修することも、1・2年次に高い水準の科目を履修することもあります。

| 水準コード | 学 修 段 階 |
|-------|--|
| 0 | 転換教育および導入教育を目的とした科目 |
| 1 | 学問分野の初級レベル，入門的位置づけの科目 (主に大学1年次を想定したレベル) |
| 2 | 学問分野の中級レベル，基礎的位置づけの科目 (主に大学2年次を想定したレベル) |
| 3 | 学問分野の上級レベル，発展的・応用的位置づけの科目 (主に大学3・4年次を想定したレベル) |
| 4 | 学士課程で学修する最高水準の科目 (主に4年次を想定したレベル) |
| 9 | 他大学等で開講する科目やレベル分けが困難な科目 |

- ③科目開講学部等コード 科目を開講している学部等を2桁の数字で表します。

| 科目開講学部等コード | 科 目 開 講 学 部 等 |
|------------|---------------------|
| 01 | 社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目 |
| 02 | 資格課程科目 |
| 03 | SWP科目 |
| 04 | 単位互換科目 |
| 11 | 経済学部 |
| 12 | 法学部 |
| 13 | 経営学部 |
| 14 | 商学部 |
| 15 | 文学部 |
| 16 | ネットワーク情報学部 |
| 17 | 人間科学部 |
| 18 | 国際コミュニケーション学部 |

3. 専修大学の数理・データサイエンス・AI教育

近年、AI（人工知能）は私たちの生活に深く浸透し、スマートフォンの音声アシスタント、SNSのレコメンド機能、地図アプリの経路予測など、日常的に活用されています。また、大学生活のスタートラインに立った皆さんの中には、受験勉強でAIを活用した経験がある方も多いのではないのでしょうか。例えば、生成AIを使って英作文の添削をしたり、数学の解法を調べたり、AIは受験勉強のパートナーとしても活躍しています。

内閣府は2025年にAI戦略の中間とりまとめを発表し、AIを活用した社会の構築を国家戦略として位置づけました。AIは経済成長の原動力であると同時に、倫理・プライバシー・安全保障の面で課題も生み出します。政府は、AIの透明性や安全性を確保するためのガイドライン整備、国際的なルール形成への参画、そしてAI人材の育成を柱とした政策を推進しています。

同時に、大学教育も大きな転換点を迎えています。文部科学省は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の導入を推進しており、文系・理系を問わず全ての大学生が学習することを勧めています。

専修大学では、こうした流れを受け「Siデータサイエンス教育プログラム」を全学部で展開しています。この「Si」とは「社会知性（Socio-Intelligence）」の略で、AI・データサイエンスを通じて社会課題の解決に貢献できる人材の育成を目指すものです。このプログラムは文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベル及び応用基礎レベル双方に認定されています。

「Siデータサイエンス教育プログラム」の基礎リテラシーレベルは、基礎的な情報処理能力、データ分析力、情報倫理の修得を目標としています。また、応用基礎レベルは、専門分野の学問とデータサイエンスの融合から新しい知の創出を目指し、基礎リテラシーレベルの内容をさらに深く・広く展開して学べます。

専修大学人間科学部では、基礎リテラシーレベル、応用基礎レベルの修了要件を次ページの表のとおり定め、修了者には世界共通の技術標準規格に基づいて発行されるデジタル証明書「オープンバッジ」を授与します。

【基礎リテラシーレベル修了要件】

| 学部 | 学 科 | 科 目 | 単位数 | 必修・ 選択必修 | 修了要件 |
|-----|-----|------------|-----|-------------|------|
| 人間科 | 心理 | データサイエンス入門 | 2単位 | ○ | 2単位 |
| | 社会 | データサイエンス入門 | 2単位 | ○ | 2単位 |

【応用基礎レベル修了要件】

| 学部 | 学 科 | 科 目 | 単位数 | 必修・ 選択必修 | 修了要件 | 応用基礎レベ ル修了要件 |
|-----|-----|--------------|-----|-------------|------|-----------------|
| 人間科 | 心理 | 数理科学C1 | 2単位 | ○ | 2単位 | 8単位修得 |
| | | データサイエンス実践 | 2単位 | ○ | 2単位 | |
| | | AI基礎 | 2単位 | ○ | 2単位 | |
| | | データサイエンス活用演習 | 2単位 | ○ | 2単位 | |
| | 社会 | 数理科学C1 | 2単位 | ○ | 2単位 | 8単位修得 |
| | | データサイエンス実践 | 2単位 | ○ | 2単位 | |
| | | AI基礎 | 2単位 | ○ | 2単位 | |
| | | データサイエンス活用演習 | 2単位 | ○ | 2単位 | |

4. 全学公開科目

(1) 全学公開科目とは

本学では、各学部・学科の教育方針に則して、多様な授業科目を開講しています。このうち、「専門科目」は学部別に開講されているため、他学部で開講している専門科目に興味があっても、以前は履修することができませんでした。

多様な履修希望に応え、他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう、「学部間相互履修制度」が設けられました。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」です。

(2) 公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではありません。どの科目を「全学公開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定めます。

卒業するまでに、どの科目が「全学公開科目」として履修できるかは、ホームページで公開します。

(3) 講義内容

「全学公開科目」の講義内容を確認したい場合は、その科目の講義要項（シラバス）を確認してください。講義要項（シラバス）はホームページから確認できます。

(4) 履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修者数の制限を行うことがあります。そのため、その科目担当者の履修許可を得なければ履修することができません。

履修手続・選考等の詳細は、ガイダンスおよびホームページで告知します。

(5) 修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定されます。心理学科は22単位、社会学科は20単位まで卒業要件単位に認定されます。

5. 授業科目の種類

大学で履修する科目は、必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など、次の4種類に分類されます。

必修科目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（専門科目一覧では○印で示す）

選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目（専門科目一覧では◎印で示す）

選択科目……適宜選択履修できる科目（専門科目一覧では△印で示す）

必修履修科目……指定された年次に必ず履修しなければならない科目

6. 単位制と履修年次指定制

1つの科目の授業を受け、試験に合格する等の成績評価基準を満たすことで、その科目についての「単位」が与えられます。「単位」とは一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるもので、大学で開講している各授業科目には、科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められています。大学において学修する場合、すべて単位数によって勉学の達成度が計算され、卒業の可否が決定されます。これが単位制です。

また、一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければなりません。これを履修年次指定制といいます。所定の年次で単位を修得することが、次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もあります。履修方法は学科によって違いがありますので注意してください。

7. 単位の考え方と算定基準

大学の授業は、講義、演習、実験、実習、実技などによって行われます。そして、単位とは、授業の受講に加え、事前の準備や事後の展開という学修の過程に要する時間を加味したもので、学修の量を数字で表した学修成果の指標といえます。なお、単位数は、それぞれの科目により異なります。

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることとなります。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしています。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければなりません。漫然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてください。

みなさんには、まずこの単位制度を充分理解し、学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に修得していく努力が求められます。

8. オンライン授業による修得単位の上限について

令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大において、本学を含む多くの大学では、インターネット等を介して教室以外の場所でも授業を受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ、普及してきました。

本学では、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、オンライン授業とする授業科目（総授業回数の半数以上をオンラインで行う授業科目）から修得することができる単位数の上限を、専修大学学則（第5条の4第2項）において60単位と定めています。

各授業科目の授業運営方法（対面・オンライン）は、講義要項（シラバス）などに掲載しますが、ガイダンスでのお知らせや、年度ごとに配布する時間割などの資料を確認のうえ、各自でこの上限単位数を踏まえた学修計画を立ててください。

Ⅱ 大学卒業の要件と科目の履修

1. 大学卒業の要件

大学を卒業するためには、(1)4年以上（休学の期間を除いて8年以内）在学すること、(2)所定の科目の単位を修得すること、の2要件が必要です。卒業要件を充たした者は、学位記が授与され、心理学科は学士（心理学）、社会学科は学士（社会学）の学位が与えられます。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**といいます。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており、大学の決めた卒業要件単位を修得しなければ卒業することはできません。

本学における人間科学部の卒業要件単位は、各学科とも下記のとおりです。各区分ごとの内訳については第2章「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の学び方」および第3章「専門科目の学び方」を参照してください。

卒業要件単位

| 学 科 | 卒 業 要 件 単 位 | | | | | |
|------------|--------------|----|-----|----|----------|-----|
| | 社会知性 基盤科目 | 教養 | 外国語 | 専門 | 自由 選択 | 合計 |
| 心理 | 0 | 10 | 8 | 84 | 22 | 124 |
| 心理（外国人留学生） | 0 | 10 | 8 | 84 | 22 | 124 |
| 社会 | 2 | 10 | 8 | 82 | 20 | 124 |
| 社会（外国人留学生） | 2 | 10 | 8 | 82 | 20 | 124 |

2. 履修計画の立て方

それぞれの個性と志向に応じて、4年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で、各年度の具体的な履修計画を立ててください。

ただし、大学生活全体の大枠を考えるとと言っても、入学当初から上級年次の選択科目の履修計画をたてることは難しいでしょう。なぜなら、学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断ができるようになるからです。しかし、各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかは、あらかじめ考えておく必要があります。この際、下級年次で比較的多く、上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明です。とくに4年次には卒業論文に取り組み、就職活動等があるため、あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよいでしょう。このように計画することによって上級年次になってから、余裕をもって広い範囲から選択科目を選び、また自主的な学修を深くすすめることができるようになります。

科目の選択に際して、社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目については、第2章の「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の学び方」をよく読み、また、専門科目については、学科によって異なるので、第3章の「専門科目の学び方」をよく読んでください。

履修計画を立てる際の注意事項は次のとおりです。

- ① 年度はじめに提供されるガイダンス資料を確認し、シラバスを活用して各自の履修計画をたてる。
- ② 科目の年次配当を十分考慮し、履修機会を逃さない。
(原則として配当年次以外の履修は認められない。)
- ③ 各年次ごとに相応の単位を修得する。
- ④ 必修科目、選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得する。
- ⑤ 卒業要件単位は、必要な最低修得単位なので、実際にはこれを上回る単位数を履修する計画をたてる。

3. 履修上限単位数

各年次ごとに、履修できる上限の単位数が定められており、人間科学部では各年次一律に48単位が上限となります。海外語学短期研修及び資格課程科目については、年間の履修上限単位数には含めません。また、履修上限単位数には、再履修科目も含めます。

4. 科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得するようにしてください。必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には、原則として次の年次にそれらの科目を再履修してください。ただし、次の年次に進級すると、その年次に配当されている必修科目や選択必修科目があり、それらと再履修科目が時間割の上で重複し、両方を同時に履修できない場合があります。もし、そのような場合は、**再履修科目を優先して履修してください**。必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけてください。

なお、この原則は選択科目にはあてはまりません。自らの判断で再履修しても良いでしょう。

不明な点は、各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課人間科学部窓口にお問い合わせください。

5. 履修モデル

専修大学の人間科学部ホームページの各学科のページに、「履修モデル」を掲載しているので、履修の際に参考にしてください。ただし、「履修モデル」はあくまで目安です。履修登録をする際には、必ずこの学修ガイドブックに記載されている、自身が所属する学科の「社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧」と「専門科目一覧」で、卒業要件が満たせる計画であることを確認してください。

Ⅲ 科目の履修登録

科目の履修登録は、みなさんが考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段です。学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って、その年度に履修する科目を選択し、定められた期日までに登録します。次にあげる注意事項をよく確認し、誤りのないよう履修登録を行ってください。

- ① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合、その年度の授業科目の履修は認められず、単位は修得できない。
- ② 履修登録手続きに関する各種登録方法や重要事項等については、履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および人間科学部時間割（冊子・データ）で確認すること。
- ③ 一部の科目については、抽選や履修者選抜を行う場合があるので、履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および人間科学部時間割（冊子・データ）で確認すること。
- ④ 履修登録期間後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。
- ⑤ 心理学実験演習1 および専門ゼミナールAの所属は原則として、履修する前年の9月頃からテーマ、募集人員、選考方法などについてのガイダンスがあり、選考のうえ、決定する。
- ⑥ 同一期間・同一曜日・同一時限においては、1科目しか登録できない。
- ⑦ 前年度までに単位を修得した科目は、指定された科目を除いて再度履修することはできない。
- ⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は、それに従って科目を履修しなければならない。
- ⑨ 同じ名称をもつ科目は、指定された特定の科目を除いて2つ以上は履修できない。なお、心理学基礎実験2および心理学実験演習1・2は2時限続きの科目であるため、2時限続けて履修しなくてはならない。
- ⑩ 必修科目は、指定された年次で必ず履修しなければならない。なお、当該年度に修得できなかった場合は、翌年度必ず再履修しなければならない。
- ⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる（一部の科目を除く）。

IV 試験と成績評価

試験は、日常の学修成果を問うものです。したがって試験には、厳正な態度で臨んでください。遅刻や自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意してください。

定期試験は、定期試験規程（p.112を参照）に基づいて実施されるので、規程を熟知し、さらに次の事項についても十分理解してください。 ※実施の時期は変更することがあります。

1. 試験の種類

(1) 前期試験

前期のみの半期授業科目について7月から8月の間に実施する。

(2) 後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について1月から2月の間に実施する。

(3) 追試験

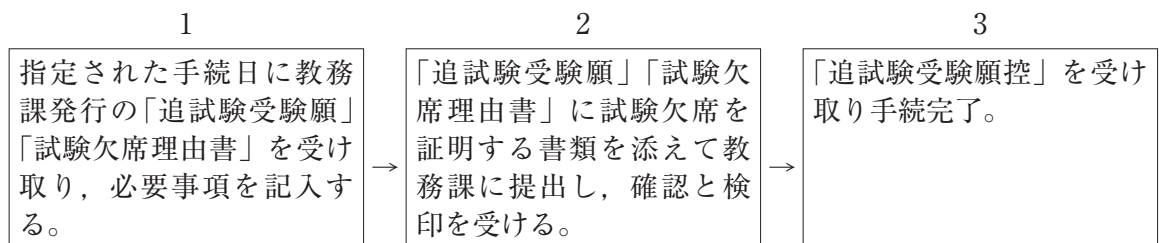
前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、当該授業科目について前期追試験を8月、後期追試験を2月から3月の間に実施する。

なお、本学では、「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう、厳しい基準を設けています。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は、「やむを得ない理由」とは見なされません。

① 追試験受験手続

追試験の受験希望者は、指定された期間に追試験受験願と、試験欠席理由を証明する書類を教務課人間科学部に提出し、受験許可を得てください。

◎追試験受験手続きの手順



② やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は、次のとおりです。

- | | |
|-------|---------------|
| ・教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| ・就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| ・公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |

| | |
|--------------------------|-------------------|
| ・天災その他の災害 | 被災を証明するもの |
| ・二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| ・本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| ・交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| ・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項 | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |

2. 受験上の注意, その他

(1) 受験について

受験上の注意については、定期試験規程にも定められていますが、さらに次の点にも十分注意してください。

- ① 同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので、自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し、間違いのないようにすること。
- ② 同一科目でも、試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。
- ③ 試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。
- ④ 答案用紙の再交付は行わない。
- ⑤ 試験場内での私語は、不正行為と見なされるので絶対にしないこと。
また、廊下等での私語は、受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

(2) 定期試験時間割

定期試験時間は、授業時間とは異なり、原則として60分です。定期試験時間割は、試験実施前に in Campus でお知らせします。ただし、資格課程科目の試験時間割は、教務課資格課程からのお知らせを確認してください。

【注意】

学生証不携帯者は、いかなる理由があっても受験できません。

ただし、当該試験開始時刻までに教務課窓口申し出た場合は、当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができます。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は、所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがあります。

試験当日は、不測の事態に備えて試験開始30分前には登校し、学生証の携帯と試験場を必ず確認してください。

なお、遅刻をした場合に受験が認められるのは、試験開始後20分までに試験場に到着した場合です。

3. 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては平常点で成績評価が行われるため、前期試験、後期試験は実施されず、したがって追試験も実施されないものがあります。

平常点で評価される科目の場合、各科目の授業期間を通しての、授業への貢献度や授業での発表内容、レポート、授業の中で実施されるテスト等（注1）によって総合的に成績評価が行われます。

注1）授業の中で実施されるテストは、期末テスト、授業内テスト、中間テスト、小テスト等と呼ばれ、定期試験規程に定められた試験ではないため、追試験は実施されません。

ただし、これらのテストのうち、授業期間の最終週に実施されるものの中には、授業科目担当教員の判断によって、定期試験規程を準用して実施する場合もあり、その授業科目については、追試験が実施されます（追試験を受験するためには、前述の追試験受験手続をとり、受験許可を得ることが必要です）。

4. 卒業論文

卒業論文は、必修科目です。卒業論文は4年次で提出し、その審査に合格しなければなりません。卒業論文は、専門的かつ自主的な研究の中核であり、指導教員の指導を受け、その指導による学修の成果として提出するものです。

(1) 卒業論文提出締切

提出締切日は12月中旬です。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し、期限を厳守してください。

(2) 卒業論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従ってください。

(3) 卒業論文提出方法

次のとおり、学科によって提出方法が異なります。

・心理学科

卒業論文はオンラインによる提出とします。詳細は心理学科が独自に行う卒業論文のガイダンス時に指示します。

・社会学科

卒業論文は教務課（人間科学部）窓口への提出とします。提出時に携行すべきものは次のとおりです。

卒業論文、学生証、中表紙、卒業論文題目届。

※題目届、卒業論文の題目及び中表紙の題目は一致している必要があります。

(4) 口 述 試 験

1月中旬～1月下旬

欠席すると単位は与えられません。この期間はスケジュールを空けておくようになしてください。

5. 成績評価と通知

(1) 成績評価の方法について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、口述試験、実技試験またはレポート）によって評価されますが、科目によっては、それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や、平常点だけで評価する場合があります。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とします。また、授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（GP）を付与し、GPA（Grade Point Average）を算出します。

(2) 成績評価の区分

| 評点 | 評価 | GP* | 内容 |
|--------|----|-----|-----------------------------------|
| 100～90 | S | 4.0 | 抜群に優れた成績 |
| 89～85 | A+ | 3.5 | 特に優れた成績 |
| 84～80 | A | 3.0 | 優れた成績 |
| 79～75 | B+ | 2.5 | 良好な水準に達していると認められる成績 |
| 74～70 | B | 2.0 | 妥当と認められる成績 |
| 69～65 | C+ | 1.5 | 一応の水準に達していると認められる成績 |
| 64～60 | C | 1.0 | 合格と認められるが最低限度の成績 |
| 59～0 | F | 0.0 | 不合格 |
| 認定 | N | なし | 留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。 |
| 履修中止 | W | — | 所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。 |

※GP = グレードポイント

(3) GPA（Grade Point Average）制度について

GPA制度は、国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので、授業科目ごとの成績評価（本学ではSからFの8段階）に対してグレードポイント（GP）を付与し、この単位当たりの平均を算出した値がGPAです。具体的な算出方法は次のとおりです。

$$(S \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{ の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{ の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{ の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{ の修得単位数} \times 1.0) + (F \text{ の単位数} \times 0.0)$$

総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）

【GPAに関する各種要件】

- ・ GPAの算出対象となる科目は、卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など、自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。
- ・ 留学等で単位認定された科目（N）は、GPAに算入されない。また、履修中止した科目についても、GPAに算入されない。
- ・ 不合格（F）の科目を再度履修した場合、成績の可否にかかわらず、GPAには最新の評価が反映される。
- ・ GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで表示とする。
- ・ 一度単位を修得した科目を、次学期以降に再度履修することはできない。

(4) 履修中止について

「履修中止」とは、履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる制度です。履修中止申請期間は、前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定されます。日程、手続方法、その他詳細については、お知らせを確認してください。

なお、履修中止申請をする際には、以下の点に注意してください。

- ①履修中止した授業科目については、当該授業への出席、定期試験の受験、単位の修得はできない。
- ②履修中止した授業科目の単位は、年間の履修上限単位に含まれる。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。
- ③履修中止した授業科目は、GPAに算入されない。
- ④履修中止により、当該年度の履修登録科目がなくなる場合は、履修中止申請が認められない。
- ⑤履修中止申請した授業科目について、履修中止申請期間後に申請を取り下げることができない。

(5) 成績通知について

学業成績の結果は点数で表し、9月（前期科目）および3月に「成績通知書」にて通知します。成績通知書は、大学のホームページを経由して閲覧することができます。

なお、就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には、修得した授業科目のみをSからCの評価で記載されます。併せて、通算のGPAも記載されます（GPAには不合格科目も算入します）。

※資格試験、留学などの結果により単位を認定する科目もあります。この場合、認定される科目の評価は、点数などで表さず、すべて「N」と記載します。

V 卒 業

1. 卒業見込証明書の発行

就職活動等に際し必要となる書類の1つに**卒業見込証明書**があります。みなさんが3年次までに修得すべき最低限の単位を修得し、4年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類です。企業が、採用の適否を判断する資料の1つとして卒業見込証明書の提出を要求する場合があります。3年次までにしかるべき卒業要件単位を修得することで、卒業見込証明書を発行できます。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき、万全を期して履修計画を立て、勉学に精進してください。

卒業見込証明書の発行条件

| 発 行 年 次 | 発 行 条 件 |
|---------|-------------------------------|
| 4 年 次 | 3年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。 |

2. 卒業発表

- (1) 卒業が決定した学生については、2月下旬に第1次卒業決定者としてホームページで発表します。
- (2) 2月下旬に行われる追試験の結果、卒業が決定した学生については、3月中旬に第2次卒業決定者として、ホームページで発表します。
- (3) 卒業の可否は、ホームページおよび成績通知書を確認すること。電話での問合せには一切応じません。

第2章

社会知性基盤科目，教養科目，外国語科目， 単位互換科目の学び方

- I 社会知性基盤科目
- II 教養科目
- III 外国語科目
- IV 外国人留学生の特例履修科目
- V 単位互換科目

I 社会知性基盤科目

大学での学びは、高校までとは異なり、自らの関心や目的に応じて主体的に取り組むことが求められます。そのためには、講義を聴くだけでなく、図書館やパソコンを活用して情報を収集し、必要に応じてフィールドワークを行い、学んだ内容を他者に伝え、レポートや論文にまとめる力が重要です。

「社会知性基盤科目」は、専修大学が掲げる「社会知性の開発」に由来しています。学士課程教育の土台として、大学での学修に必要な力と、現代社会で求められる力を身につけるために設けているものであり、「S i 基礎科目」と「S i 応用科目」の二つに区分されています。

この社会知性基盤科目を通じて、みなさんは大学での学びの基礎を築き、情報化・複雑化が進む社会で活躍するための力を身につけていきます。社会知性の開発の第一歩として、積極的に学んでください。

1. S i 基礎科目

(1) 専修大学入門ゼミナール

専修大学入門ゼミナールは、みなさんが高校生活から大学生活への転換を図り、専修大学の学生としての自覚を持ち、大学での学修に必要な基本的なスキル（技法）を身につけることなど、以下の3点を目標としています。

第1に、大学で学ぶことの意味を十分に理解することです。大学の学修では、将来の展望も踏まえながら、主体的かつ積極的に学びを深める姿勢が求められます。

第2に、専修大学の学生としての自覚を持つために、専修大学の歴史を学ぶことです。これから4年間を過ごす「学びの庭」である専修大学の成り立ちと、それを築いてきた先人たちの努力の歩みを知ることは、専修大学で学ぶ意義を理解することにつながります。

第3に、アカデミックスキルを修得することです。具体的には、「講義の聴き方」「資料の収集方法」「学修成果の伝え方」「討論の方法」「成果のまとめ方」などを学びます。たとえば、講義でのノートの取り方、文献や資料の探し方、報告の方法（レジュメの作成）、討論の進め方、レポート・論文の書き方など、大学における学修方法を身につけていきます。

専修大学入門ゼミナールは、これらのことを達成するために、1クラス25名前後の少人数で実施されます。学修のための入門科目であると同時に、みなさんが新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った仲間や教員との交流を通じて、語り合い、励まし合いながら、大学生活を充実させるための基礎づくりの場でもあります。

なお、心理学科において専修大学入門ゼミナールは、単位の修得は義務づけられていませんが、必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履

修することはできません。

(2) データサイエンス入門、データサイエンス実践、AI基礎、データサイエンス活用演習

専修大学では、Siデータサイエンス教育プログラム基礎リテラシーレベルとして、データサイエンス入門を設置しています。データサイエンス入門では、Siデータサイエンス教育プログラムの学修内容、データサイエンスの基本的な考え方、AIが社会でどのように利用されていて、倫理的な側面を含む留意点について、実習を行う授業と動画で学びます。また、データサイエンスの基本的な事項について表計算ソフトウェアを通して学びます。なお、データサイエンス入門は他の科目の学修や実社会での活動に必要なスキルですので、積極的に学修することを推奨します。

基礎リテラシーレベルの内容をより深く・広く学びたい学生のために、Siデータサイエンス教育プログラム応用基礎レベルの科目として、データサイエンス実践（1～4年次配当）に加え、AI基礎（2～4年次配当）、データサイエンス活用演習（2～4年次配当）を設置しています。

Siデータサイエンス教育プログラムの修了要件に定められた科目（詳細は、数理・データサイエンス・AI教育のページを参照）の単位を修得することで修了が認められ、データやAIを活用するためのスキル（情報・データリテラシー）を身につけることができ、就職活動でも利用可能な修了証を得られます。

| データサイエンス入門の学修内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 専修大学の情報システムの利用法● 社会におけるデータ・AI利活用とデータ・AI利活用における留意事項● 表計算ソフトウェアを利用した基本的なデータ分析<ul style="list-style-type: none">➢ データの集計（適切な集計方法）➢ 計算式による分析方法の指定法➢ さまざまなグラフによる可視化や不適切なグラフ● e-Stat（政府統計の総合窓口）などのオープンデータを利用した分析・レポートの作成 |

| データサイエンス実践の学修内容 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 数値、文字などの表現方法● 表計算ソフトウェアを使って、相関関係などの統計分析、回帰分析● 時系列データの分析● 表計算ソフトウェアを通して、微積分・行列などの学修● プログラミング（Python）の学修● アンケート調査データの分析（クロス集計、可視化、テキスト分析） |

| AI基礎の学修内容 |
|---|
| AIを利用・活用するための実践的な知識の基礎部分を理解 |
| <ul style="list-style-type: none">● AI発展の経緯や概念理解● AIの基礎理論・技術・手法の理解● AI技術の活用分野の理解● AI活用に必要な統計基礎知識の理解● AI活用に必要な基本数理の理解● AI活用に必要な適用方法論の修得● AI活用に関連する法知識・情報管理● AI活用に関連する認定資格 |

| データサイエンス活用演習の学修内容 |
|---|
| データサイエンス活用のための一般知識を総括。グループワークとして、具体的なテーマを選定して、活用のための推進企画を立案し、相互発表・評価 |
| <ul style="list-style-type: none">● データサイエンス活用プロジェクト推進方法論の修得● データサイエンス活用のために必要な知識を総括・補完● 生成系AIも活用しながら、各グループワークチームで、企画書策定・発表 |

(3) キャリア教育科目

S i 基礎科目に位置付けられているキャリア教育科目は、「大学生活において、さまざまな選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか、卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには、将来どのような働き方をしたいか、そのために大学4年間をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し、デザインすることが必要です。

そもそも、「キャリア (career)」の語源はラテン語で、「車道」や「車輪の跡 (轍)」などを意味しています。ですから、ある人のキャリアとは、その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から、キャリアは「個人のさまざまな立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方、「デザイン」は、「設計」や「構想」を指します。したがって、キャリアをデザインするとは、「自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば、過去の人生を踏まえながら、未来の自分の生き方、働き方や学び方について深く考え、そのために現在自分は何をすべきかを認識すること、となります。そのためにキャリア教育科目では5つの科目を用意し、体系的にキャリアを形成できる仕組みを整えています。

①キャリア入門

キャリア入門は、自分の性格や価値観を知ることから始め、社会の成り立ちや具体的な仕事の内容、働くことにまつわる法律などを知ること、さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが、主な目的です。1年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで、将来に対する漠然とした不安感を取り除き、自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし、充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。キャリア入門を受講すると、大学内外での学びを意識しながら、キャリアに対する知識を獲得し、職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。あるべき自分を早い段階で意識し、己の進むべき道を主体的に選択できるよう、キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお、キャリア入門は、1年次の選択科目です。1年次に履修しなかったり、履修して単位を修得できなかった場合でも、次年度以降に履修することはできません。

②キャリア科目1 (キャリア開発)

企業の採用活動や業界・企業研究の方法、将来働き続けるために必要な姿勢・行動を、ゲスト講師からの講話を通じて学んでいきます。自分のこれからのキャリアについて考え、大学生活ですべきことを計画し、実践できるようになることを目的に授業を実施します。

③キャリア科目2（キャリア研究）

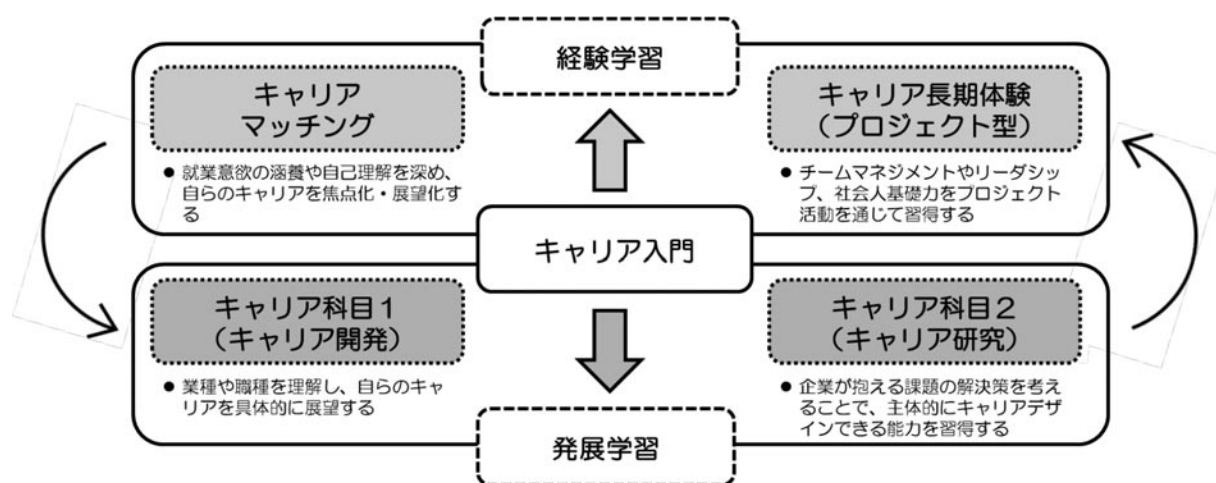
企業研究を通じて、企業が抱える問題を把握し、問題解決のための情報収集・整理の基本ステップを学びます。ゲスト講師からの課題提示を受けて、課題達成のためのチーム活動から解決策のプレゼンテーションを実施します。

④キャリアマッチング

夏期休暇期間中に実施されるキャリアデザインセンターの就業体験プログラムに参加した学生が履修することができる科目です。授業では就業体験の振り返りからスタートし、自身のキャリアと向き合い、学生生活と卒業後の目標設定を行います。また、受講者間のディスカッションを通じて、他業種や他職種の理解を深め、社会理解を促します。

⑤キャリア長期体験（プロジェクト型）

キャリアデザインセンターが実施するPBL（Project Based Learning）プログラムのプロジェクト活動と連動した科目です。講義では、チームを牽引するために必要となるスキルや、他者理解を深めるスキル、社会人基礎力を修得することを目的とした授業を実施します。



(4) グローバルスタディ

グローバルスタディは、「社会知性」が定義する「地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」の修得を目指す授業科目です。多様な文化や価値観を理解し、グローバルな課題への関心と理解を深めることで、異なる背景を持つ人々と協働する姿勢を養うことが期待されます。

授業はさまざまな形式で開講され、内容に応じて「グローバルスタディ（○○○○）」のようにテーマを明示する場合があります。括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます。また、括弧が付されていない場合には、担当教員が異なれば、それぞれ履修することができ、同一年度での複数履修も可能です。なお、修得単位数に上限は設けられていません。

具体的には、海外客員教授による英語での授業や、国際交流センターが主催する「東南アジア・スタディツアー」参加者への単位認定など、実践的かつ多様な国際教育活動と連携して展開されます。

グローバルスタディは、語学学習や異文化理解にとどまらず、世界とつながる知性と感性を育てるための学びです。国際社会の一員として、他者と共に課題を解決し、より良い未来を築く力を身につけるために、この授業科目を積極的に活用してください。

2. S i 応用科目

S i 応用科目は、「社会知性の開発」を実践するために設けられた、より発展的な学びの場です。現代社会の複雑な課題に向き合うためには、学問の枠を越えて柔軟に思考し、主体的に取り組む姿勢が求められます。こうした力を養うことが、S i 応用科目の目的です。

この科目区分には、**分野横断科目**と**S i ゼミナール**が設置されています。

分野横断科目では、文理の枠を越えた学際的なテーマや、**STEAM** 教育 (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) に関連する内容など、複数の領域を横断する視点から現代的な課題にアプローチします。開講される各授業には、「分野横断科目 (○○○○)」のようにテーマが明示され、その表記が異なる場合には、それぞれ履修・修得することができます。

S i ゼミナールは、少人数で行うゼミナール形式の授業科目です。担当教員の専門分野に関連したテーマのもと、学生同士の発表や討論を通じて、テーマに対する理解を深め、主体的に思考する力を養います。学部横断的な開設方法を特徴とし、学部の異なる学生同士が一緒に学ぶことのできる科目です。学際的なテーマが設定されることが大きな特徴で、専門科目のゼミナールと重複して履修することも可能となっており、副専攻的な位置づけとすることもできます。授業では、学生が自ら調べ、考え、発信することで、論理的思考力や問題解決力を身につけるとともに、自己設計・管理力などが磨かれていきます。関心のあるテーマに取り組み、学問的な視点を広げるとともに、社会の課題に対して自らの考えを持ち、発信できる力を身につけることが期待されます。

Ⅱ 教養科目

教養科目の位置づけと目的

教養科目は専門科目と併せて、S i 基礎科目で身につけた基本的な力を用いて、さらに知識を広げ、それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また、専門科目で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。教養科目は専門科目とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ、ストレスも多くなっています。このような時代には、バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会、身体や自然への知識と理解、またそこから得られる国際的な広い視点は、複雑な社会で生きるための基礎となります。

教養科目の学び方

教養科目のうち、「人文科学基礎科目」と「社会科学基礎科目」は、1・2年次で履修します。科目ナンバリング、講義要項（シラバス）を参考にしながら、自分の学部・学科の専門性を考慮して、履修することが望まれます。「自然科学系科目」と「保健体育系科目」は、講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。ただし、教室定員によって履修者を抽選で決定することがあります。

（1）人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように、大きい枠組みでは、文学・歴史学・哲学・芸術学・文化人類学・ジャーナリズム学・心理学に分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので、みなさんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では、これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられているのでしょうか。それは、これらの学問がいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。人文科学は、具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする、そのような領域です。そして、人間の営みはさまざまですから、それに応じて多種多様な学問が生まれるのです。

人文科学の領域からは複数の科目を履修していただくことを推奨します。そうすることによって、さまざまな人間観や世界観、歴史、多文化、異文化についての関心を広げること、そして、多面的なものの見方に立ち、日常生活での人間性に関わる諸問題の解決に取り組むことができるようになります。

ます。ここに人文科学領域の、単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり、これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学基礎科目の学び方

- ・人文科学基礎科目は、1・2年次に履修します。
- ・科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。しかし、その場合でもその科目の到達目標は同じです。
- ・個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、人間の営みのさまざまな側面を知り、自分とは違った観点をもつことができるようになるためには、一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の学問領域から履修することが望まれます。

人文科学の学問領域と人文科学基礎科目の設置科目

| 人文科学の学問領域 | 人文科学基礎科目の設置科目 |
|-----------|---|
| 文 学 | 日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 |
| 歴 史 学 | 歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 |
| 哲 学 | 哲学 倫理学 論理学入門 ことばと論理 |
| 芸 術 学 | 芸術学入門 |
| 文 化 人 類 学 | 異文化理解の人類学 |
| ジャーナリズム学 | ジャーナリズムと現代 |
| 心 理 学 | 基礎心理学入門（心理学科を除く） 応用心理学入門（心理学科を除く） |

(2) 社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業、国家、家族、地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気がきます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与えあっているのかを理解する学問です。

自分が生きている社会ですから、理解できていると思いついてしまったり、先入観にとらわれて誤認したりすることもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、そして、多面的なものの見方に立って、一市民として、社会生活上の諸課題の解決に取り組むことができるよう、表にあるような科目を設置しています。

社会科学基礎科目の学び方

- ・社会科学基礎科目は、1・2年次に履修します。
- ・科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。しかし、その場合でもその科目の到達目標は同じです。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、講義要項（シラバス）で確認してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で、そのためには、一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の学問領域から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎科目の設置科目

| 社会科学の学問領域 | 社会科学基礎科目の設置科目 |
|-----------|-----------------------------------|
| 社会科学全般 | 社会科学論 社会思想 |
| 経済学 | 経済と社会 現代の経済 |
| 法学 | 日本国憲法 法と社会 |
| 政治学 | 政治学入門 政治の世界 |
| 経営学 | はじめての経営 |
| 商学 | マーケティングベーシックス 企業と会計 |
| 教育学 | 教育学入門 子どもと社会の教育学 |
| 地理学 | 地理学への招待 |
| 社会学 | 社会学入門（社会学科を除く） 現代の社会学（社会学科を除く） |
| 情報学 | 情報社会 |

(3) 自然科学系科目

専修大学における自然科学系の科目は、みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むこと』を目的としています。なぜ社会科学・人文科学系の学部を専攻するみなさんが、自然科学系科目を受講する必要があるのでしょうか。

現在、私たちは、地球温暖化、エネルギー問題、安全性や倫理性に関する問題（放射性物質の取り扱いや環境汚染物質の問題、遺伝子工学技術に関する倫理的問題など）に直面しています。みなさんが、将来どのような職業に就いたとしても、自然科学の視点からの知識や考え方、客観的根拠に基づき論理的に結論まで導く力は必要になるでしょう。

あなたと自然科学は、みなさんの自然科学に対する思考力・探究力・論述力を高め、みなさんと自然科学の関係を知るための起点となる科目として設置されます。ここで学んだことは、他の自然科学系科目に発展的につながっていきます。この科目で自然科学に対する興味・関心を深め、さらに学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

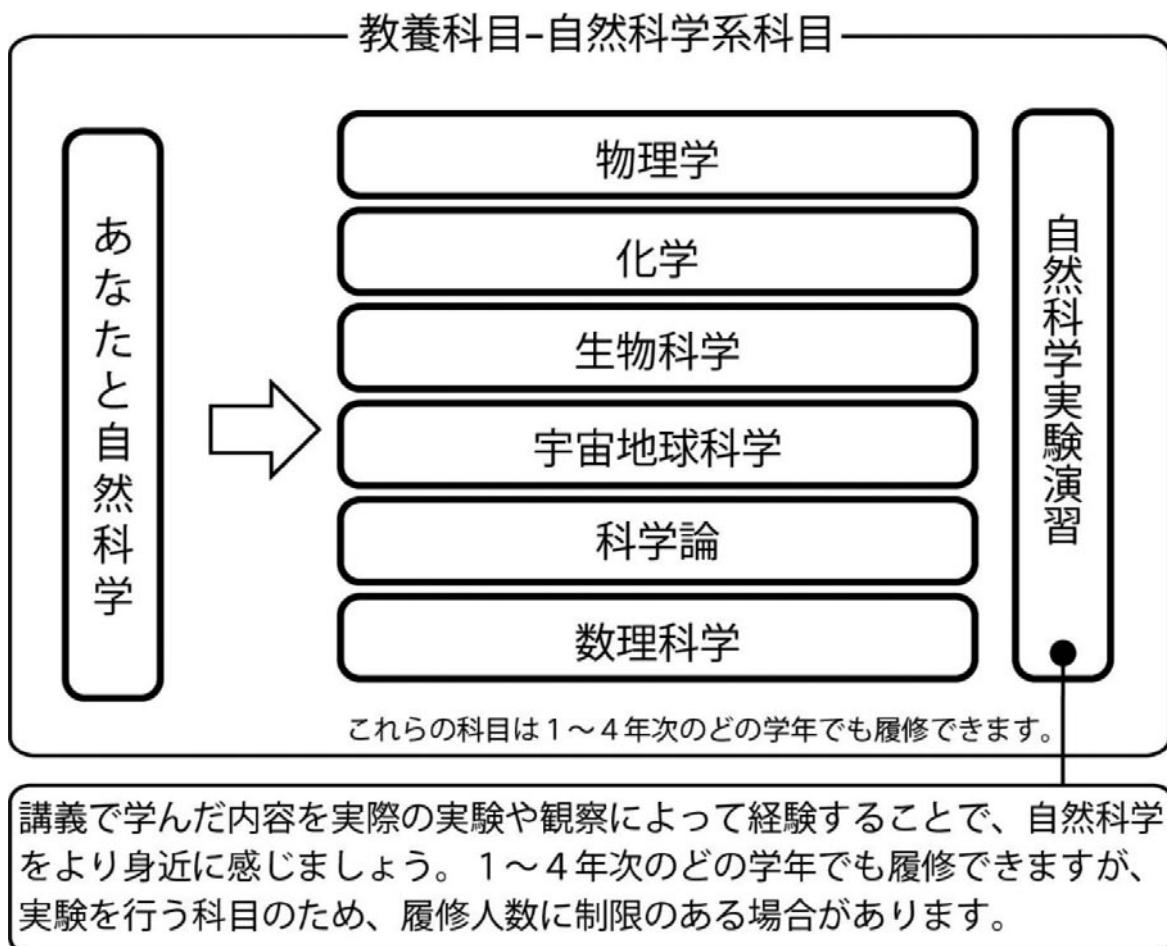
なお、社会学科において**あなたと自然科学**は、単位の修得は義務づけられていませんが、1年次に必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

自然科学系科目を学ぶ意義と目的

「自然科学系科目」として、上述のあなたと自然科学以外に、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論、数理科学および自然科学実験演習が設置されています。あなたと自然科学でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

そのために次のような目的で科目を設置しています。

- ①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。
- ②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。
- ③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作に関する倫理的問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。



自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは、次の表のとおりです。「物質」や「環境」、「宇宙」といった広いテーマに関連するキーワードは、複数の科目に含まれていることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。

| 科目名 | それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード |
|---------------|---|
| あなたと自然科学 | 自然科学一般, 自然現象, 科学技術, 科学的思考, 科学的知識 |
| 生物科学A 1・A 2 | 細胞, 遺伝子, DNA |
| 生物科学B 1・B 2 | 生物と環境の科学, 生態学, 進化学 |
| 生物科学C 1・C 2 | ホメオスタシス, 脳・神経, 内分泌, 感覚, 細胞 |
| 宇宙地球科学A 1・A 2 | 恒星, 銀河, 太陽系, 天体の運動, 天体の観測 |
| 宇宙地球科学B 1・B 2 | プレートテクトニクス, 地震, 火山, 地球の歴史, 環境変動 |
| 化学A 1・A 2 | 物質の理解, ものつくりの基本, 元素と周期表, 物質の多様性, 生体関連物質 |
| 化学B 1・B 2 | エネルギー資源, 自然環境, リサイクル, 有機化合物, 生体分子 |
| 物理学A 1・A 2 | 力学, 波動, 量子論, 電磁気学 |
| 物理学B 1・B 2 | 現代物理, 宇宙論, 相対論, 素粒子論, 統計熱力学 |
| 数理科学A 1・A 2 | 代数 |
| 数理科学B 1・B 2 | 解析・幾何 |
| 数理科学C 1・C 2 | 統計 |
| 科学論A 1・A 2 | 進化論, 大きすぎて見えないもの, 小さすぎて見えないもの |
| 科学論B 1・B 2 | 科学と技術, 科学史, 人間と科学 |

・興味のあるキーワードを中心に関連する科目を履修するのも一つの方法です。

④ 「環境」に興味がある→宇宙地球科学B 1・B 2と生物科学B 1・B 2, および化学B 1・B 2を履修する。

④ 「宇宙」に興味がある→宇宙地球科学A 1・A 2と物理学B 1・B 2を履修する。

④ 分野を超えて幅広く, そして深く履修する。→数理科学で「数学」を学び, この知識を科学論A 1・A 2の「進化論」の学修に活かす。

・「〇〇A 1」などアルファベット+番号までが科目名です。「〇〇A 1」と「〇〇A 2」は別科目です。

・「〇〇A 1」, 「〇〇B 1」, 「〇〇C 1」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり, 難易度を意味するものではありません。「〇〇C 1」から履修しても構いません。

・いずれの科目も, 年次に関わらず自由に履修することができます。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については, 講義要項(シラバス)で確認してください。

・科目名が同じでも, 担当する教員が異なる場合, 扱う内容が異なることもあります。

(4) 保健体育系科目

スポーツリテラシーを学ぶ

スポーツリテラシーとは、「スポーツ実践を通じて、その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し、スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。スポーツが有するさまざまな可能性に触れて身体知を養い、スポーツを通じた学力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

スポーツリテラシーでの取り組みは、スポーツウェルネスやアドバンススポーツでの実践的な身体活動や、スポーツ論で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

スポーツウェルネスを学ぶ

スポーツウェルネスとは、「スポーツ実践を通じて、積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。スポーツを通じた身体活動が、健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

| 1年次 | 2～4年次 |
|---|---|
| 教養科目 保健体育系科目 | |
| スポーツリテラシー ・スポーツの持つ様々な可能性にふれ、その理解を進めるとともに、スポーツを通じたコミュニケーションの場を提供します。 | アドバンススポーツ ・スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両方の単位を修得した場合に履修できる科目です。 ・「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。 ・シーズンスポーツの集中授業も展開されています。 |
| スポーツウェルネス ・スポーツを通じた心身の変化に触れ、将来における心身の健康維持・増進を図る方法について理解を深めます。 | スポーツ論 ・スポーツ論は理論科目です。 ・スポーツを様々な視点から捉えた、以下の3つの科目が展開されています。 ○ スポーツ論(ウェルビーイング) ○ スポーツ論(ハイパフォーマンススポーツ) ○ スポーツ論(サステイナブルスポーツ) |

2年次以降、教養科目の保健体育系科目アドバンススポーツとスポーツ論が履修できます。

アドバンストスポーツを学ぶ

アドバンストスポーツでは、スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに、トップアスリートとの交流、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的にしています。

スポーツ論を学ぶ

スポーツ論は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について、ウェルビーイング、ハイパフォーマンススポーツ、サステナブルスポーツの視点から学びます。世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

保健体育系科目の学び方

教養科目の保健体育系科目スポーツリテラシー（1単位）とスポーツウェルネス（1単位）の計2単位の修得が卒業要件となっています。

- ・スポーツリテラシー、スポーツウェルネスおよびアドバンストスポーツを履修する際は、事前に健康診断を受ける必要があります。2年次以降に再履修する場合も同様です。
- ・疾病、身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課窓口もしくは第1回目の授業時に申し出てください。
- ・教養科目の必修科目として開講されていますので、1年次に単位を修得できなかった場合は、2年次以降に再履修をして単位を修得してください。再履修として履修する場合は、同一期間（前期または後期）の同じ曜日にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの2科目を履修することはできません。
- ・同一年度にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの同一種目を履修することはできません。ただし、スポーツリテラシー（ゴルフ）とスポーツウェルネス（集中授業ゴルフ）の履修は可能です。
- ・2年次以降から、アドバンストスポーツとスポーツ論が履修できます。
- ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両者の単位を修得した場合に履修できます。ただし、半期1科目（種目）を上限とし、次学期以降も種目にかかわらず履修することができます。
- ・スポーツ論は、「スポーツ論（ウェルビーイング）」のように（ ）までが科目名です。年度が変わっても同一科目を重複して履修することはできません。
- ・アドバンストスポーツ（集中）は、4年次では履修できません。
- ・個々の科目内容については、講義要項（シラバス）を参照してください。

Ⅲ 外国語科目

外国語科目

外国語科目には、「英語」と「英語以外の外国語」、「海外語学研修」があります。

「英語」では、高校時代までで学んできた英語を土台としつつ、日本を含めた世界を意識した英語の学習に取り組みます。急速なグローバル化の時代、みなさんが将来どの分野に進もうとも、英語は不可欠です。ぜひ目的意識をもって英語の学修を続けていきましょう。

「英語以外の外国語」では、ことばそのものを修得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化 (Cultures) に触れます。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション (Communication) が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる (Connections), 異文化への新鮮な窓口です。

「海外語学研修」は、実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。

◎「CALL 自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス 1 号館地下には CALL 自習室と CALL ライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材をはじめ、検定試験対策教材や雑誌等が視聴、閲覧できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

(1) 英語

英語を学ぶ意義

外国語科目の「英語」では、高等学校までで学んできた英語を土台としつつ、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また、実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも大変重要です。

必ず履修する英語科目に加え、英語の 4 技能 (Reading, Listening, Speaking, Writing) をさらに高め、グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すとともに、異文化への理解を深めましょう。

①英語の履修方法

人間科学部では、1年次で、外国語科目の英語4科目（4単位）を履修することとなっています。

（A群）Basics of English（RL）1a, 1b または Intermediate English（RL）1a, 1b の2科目と、（B群）Basics of English（SW）1a, 1b または Intermediate English（SW）1a, 1b の2科目を履修します。

RLはリーディングとリスニングが中心、SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。Basics と Intermediate の違いについては、次の②を見てください。

科目名に a がつく科目は前期、b がつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

これらの科目の単位を修得できなかった場合には、General English を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English は半期科目として実施されます。

②英語の特徴

習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト」によって、Basics of English と Intermediate English のどちらを履修するかが決定します。

基礎的な学修が必要な場合は Basics of English、基礎が修得されている場合は Intermediate English を履修します。

Intermediate English はさらに Mid と High にわかれています。特に希望すれば、英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより、1レベル上（Basics of English→Intermediate English（Mid）、Intermediate English（Mid）→Intermediate English（High））のクラスの履修を許可されることもあります。

③選択科目について

外国語科目の英語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎1年次から履修できる選択科目

1年次から選択できる英語の選択科目は次の3種類です。これらは2～4年次でも履修できます。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a, English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a, Computer Aided Instruction b

e-learning教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a, Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning教材を使用し、TOEIC®で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期1単位です。

◎2年次から履修できる選択科目

2～4年次は、1年次から選択できる上記の3種類の科目に加えて、さらに4種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a, Advanced English b

発展的な内容を学修し、英検、TOEFL®, TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a, English Language and Cultures b

英語圏の文化、言語、コミュニケーションのあり方を、様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

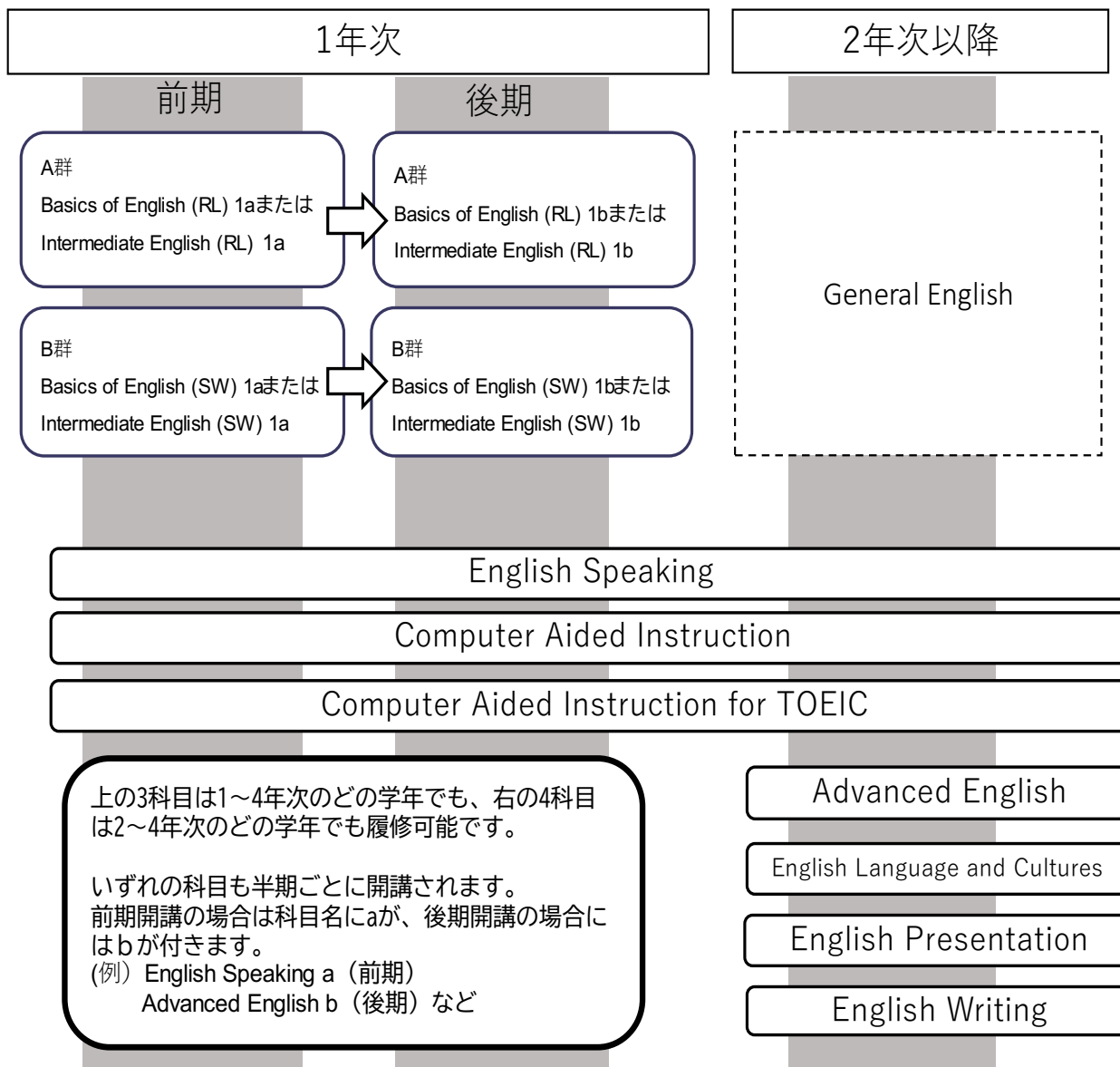
English Presentation a, English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ、聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

English Writing a, English Writing b

正しい文章を書き、正確に情報を伝達する能力を養います。

これらの科目は半期2単位です。



④資格試験による単位認定（英語）

英検，TOEFL®，TOEIC®において，一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし，下記の表のとおり単位を認定します。

| | 検定試験の種類 | 認定基準 | 認定 単位数 | 認定科目群 | | 認定科目名（単位数） |
|---------------------------------------|----------------|-----------------------------------|-----------|-------|------------------------|---|
| 上位 基準 | 英検（英検S-CBTを含む） | 準1級以上 またはCSE 2.0 2304 以上 | 4 | 必修科目 | A群 | Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1) |
| | | | | | | Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1) |
| | | | | | B群 | Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1) |
| | | | | | | Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1) |
| | TOEFL iBT®* | 83点以上 | | | 選択科目 | Advanced English a (2) |
| | | | | | | Advanced English b (2) |
| | | | | | | English Language and Cultures a (2) |
| | | | | | | English Language and Cultures b (2) |
| TOEIC® Listening & Reading Test | 730点以上 | | | | Advanced English a (2) | |
| | | | | | Advanced English b (2) | |

| | 検定試験の種類 | 認定基準 | 認定 単位数 | 認定科目群 | | 認定科目名（単位数） |
|---------------------------------------|----------------|-------|-----------|-------|------------------------|---|
| 下位 基準 | 英検（英検S-CBTを含む） | — | 2 | 必修科目 | A群 | Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1) |
| | | | | | | Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1) |
| | | | | | B群 | Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1) |
| | | | | | | Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1) |
| | TOEFL iBT®* | 61点以上 | | | 選択科目 | Advanced English a (2) |
| | | | | | | Advanced English b (2) |
| | | | | | | English Language and Cultures a (2) |
| | | | | | | English Language and Cultures b (2) |
| TOEIC® Listening & Reading Test | 600点以上 | | | | Advanced English a (2) | |
| | | | | | Advanced English b (2) | |

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎認定単位数の上限は4単位です。下位基準による2単位の認定を受けたものが、その後に上位基準を満たした場合、翌年度以降に追加認定を申請できますが、その際の認定単位数は、上限単位数から既認定単位数を差し引いた2単位となります。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎TOEFL ITP®, TOEIC®-IP は認定対象には含まれません。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定科目（群）は原則として、未修得科目のうち必修科目とし、すべての必修科目を修得している場合には、Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、当該年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験出願時に原本を提出した場合は、窓口で申し出てください。
- 4) 合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり、2年以内とします。

(2) 英語以外の外国語

英語以外の外国語を学ぶ意義

Communication + Cultures + Connection : 3つのCをさらに充実させよう

Communication : 未知の人たちとコミュニケーションしよう！

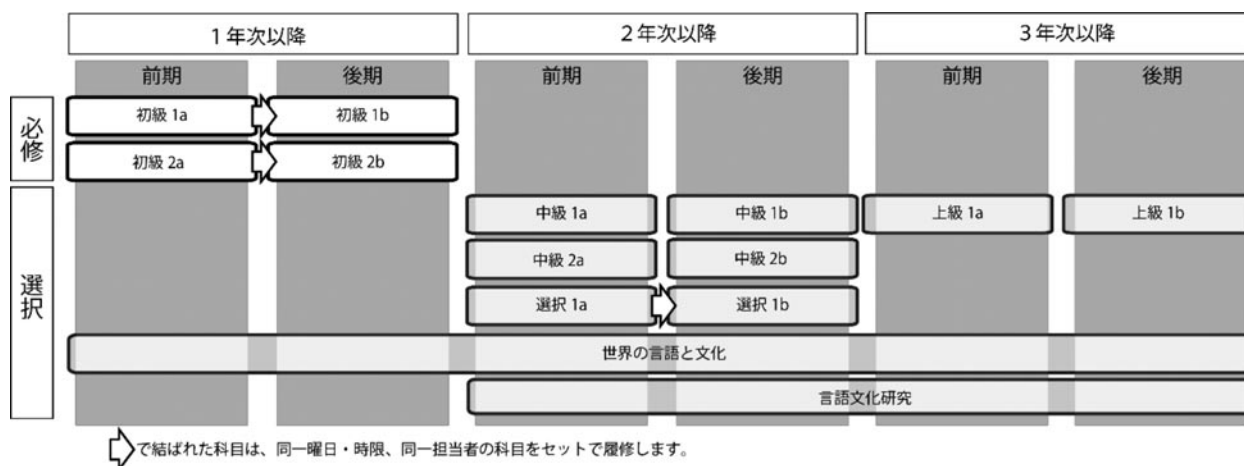
Cultures : さまざまな国、地域の社会と文化を理解しよう！

Connections : 国を越えて、分野を越えて、人と、社会とつながろう！

英語以外の外国語には、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、韓国語、アラビア語、イタリア語が設置されています。また、あわせて日本語による講義科目である世界の言語と文化と言語文化研究を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

①英語以外の外国語の履修方法

人間科学部では、1年次において、英語以外の外国語「導入」の科目（初級1a, 1b, 2a, 2b）の4科目（4単位）を必ず履修することとなっています。科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で、半期ごとにそれぞれ成績がつきます。



②英語以外の外国語の「導入」以外の科目について

英語以外の外国語では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

中級 1 a, 1 b：初級で学んだことの復習＋さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

中級 2 a, 2 b：初級で学んだことの復習＋さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

上級 1 a, 1 b：個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目まで、年度を越えてさらに2科目、合計で4回履修することができます。

選択 1 a, 1 b：第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

世界の言語と文化：各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

言語文化研究：世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

- ◎英語以外の外国語「導入」の科目（初級1 a, 1 b, 2 a, 2 b）の4科目（4単位）を修得した場合は、同じ言語の選択1 a・1 bを履修することはできません。同様に、同じ言語の初級4科目（4単位）と選択1 a・1 bを同時に履修することはできません。
- ◎必修の外国語として履修した科目の単位が未修得の場合は、再履修しなければなりません。
- ◎中級以上の科目については、開講されない外国語もあります。
- ◎英語以外の外国語に設定された卒業要件単位を超過して修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。

③資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

本学入学までに、すでに英語以外の外国語を学修し、指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合、入学年度当初に英語以外の外国語の初級1 a・1 b および初級2 a・2 b（4科目4単位）の認定を行い、中級の科目に進むことができます。

下表の資格試験の基準を満たしている学生は、初級1 a・1 bおよび初級2 a・2 bの単位認定の申請を行ってください。

| 検定試験の種類 | 認定基準 | 認定 単位数 | 認定科目（単位数） |
|--------------------------|--------|-----------|----------------|
| ドイツ語技能検定試験 | 4級 | 4 | ドイツ語初級1 a (1) |
| Goethe-Institut ドイツ語検定試験 | A 1 | 4 | ドイツ語初級1 b (1) |
| オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 | A 1 | 4 | ドイツ語初級2 a (1) |
| | | | ドイツ語初級2 b (1) |
| 実用フランス語技能検定試験 | 4級 | 4 | フランス語初級1 a (1) |
| | | | フランス語初級1 b (1) |
| DELF-DALF フランス語資格試験 | A 1 | 4 | フランス語初級2 a (1) |
| | | | フランス語初級2 b (1) |
| 中国語検定試験 | 4級 | 4 | 中国語初級1 a (1) |
| | | | 中国語初級1 b (1) |
| HSK 漢語水平考試 | HSK 4級 | 4 | 中国語初級2 a (1) |
| | | | 中国語初級2 b (1) |
| スペイン語技能検定 | 5級 | 4 | スペイン語初級1 a (1) |
| | | | スペイン語初級1 b (1) |
| DELE スペイン語検定試験 | A 1 | 4 | スペイン語初級2 a (1) |
| | | | スペイン語初級2 b (1) |
| ロシア語能力検定試験 | 3級 | 4 | ロシア語初級1 a (1) |
| | | | ロシア語初級1 b (1) |
| | | | ロシア語初級2 a (1) |
| | | | ロシア語初級2 b (1) |

| | | | |
|--|-----------------|---|--|
| インドネシア語技能検定試験 | D級 | 4 | インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) |
| ハングル能力検定試験 | 4級 | 4 | コリア語初級1 a (1) コリア語初級1 b (1) |
| 韓国語能力試験 | TOPIK I (2級) | 4 | コリア語初級2 a (1) コリア語初級2 b (1) |
| <p>注意事項</p> <p>単位認定の取り扱いについて</p> <p>◎同一言語の4科目4単位をセットで認定します。</p> <p>◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。</p> <p>◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。</p> <p>◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。</p> <p>◎認定された場合は、所定の手続きを経ることで、1年次に同一言語中級科目の履修が認められます。</p> <p>◎認定された場合は、初級1 a・1 bおよび初級2 a・2 bを履修することはできません。別の外国語を学修する場合、2年次以降に選択1 a・1 bを履修してください。</p> <p>申請手続き</p> <p>1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出してください。</p> <p>2) 申請期間は、入学年度の4月20日(休日の場合は前日)までとします。</p> <p>3) 提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。</p> | | | |

(3) 海外語学研修

留学プログラム

本学国際交流センターでは、多様な留学プログラムを展開し、留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は語学力の向上に加え、異文化の中での生活を通して机上の学修では得られない貴重な学びを得る機会です。各プログラムの詳細は、国際交流事務課窓口・グローバルカウンターまで問い合わせてください。

以下に、留学プログラム修了により単位認定される科目を紹介します。

①海外語学短期研修

海外語学短期研修は、「夏期留学プログラム」を修了した場合に海外語学短期研修1に、「春期留学プログラム」を修了した場合に海外語学短期研修2に認定されます。

「夏期留学プログラム」及び「春期留学プログラム」は、夏期または春期休暇を利用して海外の協定校等で約1ヶ月間語学を学び、現地での様々なアクティビティや文化施設への訪問を通して文化や歴史への理解を深めます。一部のコースではプロジェクトワークや海外インターンシップがあります。

②海外語学中期研修

海外語学中期研修は、「中期留学プログラム」を修了した場合に認定されます。

「中期留学プログラム」は、本学協定校あるいは研修校に前期または後期の3～5ヶ月間留学し、留学生を対象に開講されている集中語学研修に参加するプログラムです。一部のコースには集中語学研修後に約1ヶ月間の海外インターンシップが含まれています。

③交換留学

交換留学には、「長期交換留学プログラム」（7ヶ月～1年間）と「semester交換留学プログラム」（4～5ヶ月）の2種類があります。どちらも本学協定校にて、正規授業科目を履修するプログラムです。留学中に修得した単位は、審査のうえ60単位を上限に本学の単位に振り替えることができます。

④グローバルスタディ（交換留学語学演習）

「長期交換留学プログラム」において、正規授業開始前に集中語学研修の受講が含まれているコースがあります。修了者には、「グローバルスタディ（交換留学語学演習）」（2単位）として単位が認定されます。

⑤グローバルスタディ（日本研究）

グローバルスタディ（日本研究）は、寮内留学プログラム（後期）参加者を対象とした科目です。寮内留学プログラム参加者は留学生との協働学修を行う「SIU インターナショナルプログラム」に参加します。本プログラムはグローバルスタディ（日本研究）（1単位）として開講され、履修者には成績評価が行われます。

⑥グローバルスタディ（東南アジア研究）

グローバルスタディ（東南アジア研究）は、「東南アジア・スタディツアー」参加者を対象としたプログラムです。本スタディツアーは、オンライン学習と海外渡航を組み合わせた特徴のある留学プログラムで、国際交流協定校であるタイ商工会議所大学で英語による講義を通じて、東南アジアの社会や文化への理解を深めます。修了者には2単位が認定されます。

※各種プログラムの概要については（4）留学プログラムを確認してください。

※募集時期・出発時期等の詳細については、国際交流センターのガイドブック及びホームページを確認してください。

（4）留学プログラム

本学では、18ヶ国・地域30大学・機関（令和7年11月現在）と国際交流協定を結び、教員および学生の相互交流を積極的に進めています。学部学生の参加できる留学プログラムは以下のとおりです。応募条件や応募方法は、プログラムや留学先により異なります。また、留学先や期間、内容等は、今後、変更となる可能性があります。最新情報や詳細については、専修大学ホームページ「国際交流・留学」を参照するか、国際交流センター（生田キャンパス）またはグローバルカウンター（神田キャンパス）窓口にて問い合わせてください。



国際交流センター



海外留学プログラム

①長期交換留学プログラム

国際交流協定を結んでいる海外の大学に最長1年間留学し、現地の正規授業科目を履修するプログラムです。参加学生は、専門分野の理解を深め、語学力を向上させるだけでなく、旺盛なチャレンジ精神とグローバルな視野を身に付け、人間的に大きく成長しています。また、交換留学制度に基づいているため、留学先大学に支払うべき正規授業の学費の一部または全部が免除されます。留学先大学で修得した単位は、審査の上、60単位を限度に本学の単位に振り替えることができます。なお、認定される科目や単位数については、履修科目の内容および成績評価に基づき審査されます。

また、留学先大学において、正規授業開始前に集中語学研修受講が含まれる場合は、「グローバルスタディ（交換留学語学演習）」（2単位）として単位が認定されることがあります。単位認定の詳細については、候補者決定後に実施されるオリエンテーションや教務ガイダンスで説明があります。

長期交換留学プログラム



②セメスター交換留学プログラム

国際交流協定を結んでいる海外の大学に約4～5ヶ月間留学し、1学期相当の正規授業科目を履修するプログラムです。専門分野の学びに加え、語学力を高め、異文化理解を深める貴重な機会となります。留学期間が1学期に限定されるため、経済的な負担を抑えられるのも本プログラムの特徴です。また、交換留学制度に基づいているため、留学先大学に支払うべき学費（正規授業）の一部または全部が免除されます。留学先大学で修得した単位は、審査の上60単位を限度に本学の単位に振り替えることができます。なお、認定される科目や単位数については、留学先大学で修得した科目の内容や成績評価に基づき審査されます。

セメスター交換留学プログラム



③中期留学プログラム

協定校・研修校に約4～5ヶ月間留学し、留学生向けの集中語学研修に参加するプログラムです。インターナショナルクラスでの学びを通じて、実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、プレゼンテーション、ノートテイキング、リサーチ、論文作成など、大学での学修に必要なアカデミックスキルを体系的に見につけることができます。さらに、異文化理解を深める授業や多様な国籍の学生との交流を通じて、グロー

中期留学プログラム



バルな視野を養うことができます。なお、ニュージーランド・ワイカト大学で実施される「社会知性開発コース」では、英語研修後に現地での海外インターンシップが組み込まれており、実践的な国際経験を積むことが可能です。

単位認定

- ◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は中期留学プログラムの参加決定後、所定の期間に教務課で面接の上、中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。
- ◎学修成果の評価は、当該科目担当教員が「事前授業」、「事後授業」、「留学先の成績表」等に基づいて行い、「認定」として単位を授与します
- ◎単位は自由選択修得要件単位として、英語では海外語学中期研修1～8（英語）（各2単位）、ドイツ語では海外語学中期研修1～8（ドイツ語）（各2単位）、フランス語では海外語学中期研修1～8（フランス語）（各2単位）、中国語では海外語学中期研修1～8（中国語）（各2単位）、スペイン語では海外語学中期研修1～8（スペイン語）（各2単位）、韓国語では海外語学中期研修1～8（韓国語）（各2単位）で、それぞれ最高16単位まで認定されます。

④夏期留学プログラム

夏期休暇中に、協定校・研修校で英語や文化を学ぶ初・中級者向けプログラムとして位置づけられ、「社会知性開発コース」としてイギリスとオーストラリアのコースがあります（令和7年11月現在）。イギリスでは現地のオックスフォード大学生と一緒にプロジェクトワークに取り組み、交流を通して異文化への理解を深めます。また、オーストラリアでは、2週間の海外インターンシップを体験します。

夏期留学プログラム



単位認定

- 海外語学短期研修1 [2単位（1～3年次配当）]
- ◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び夏期留学プログラム2度目の参加者については対象となりません。
- ◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

⑤春期留学プログラム

春期休暇中に、協定校・研修校にて語学研修に参加する短期留学プログラムです。語学研修に加え、現地での様々なアクティビティや文化施設への訪問を通して、文化や歴史について理解を深めることができます。英語コースをはじめ、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語および韓国語など英語以外の外国語コースもあり、初級者向けのプログラムとなっています。

春期留学プログラム



単位認定

海外語学短期研修2 [2単位 (1～3年次配当)]

- ◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び春期留学プログラム同一言語コース2度目の参加者については対象となりません。
- ◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

⑥寮内留学プログラム (前期)

「専修大学国際交流会館」にレジデント・パートナー (RP) として5月から約3か月間入寮し、異文化理解や国際コミュニケーション力を養い、グローバル人材の育成を目指します。また、留学生との協働生活を通じて、多様な価値観、発想、習慣等に触れる機会を日常的に持つことができ、「多文化共生」を実践し学びにつなげます。

寮内留学プログラム



⑦寮内留学プログラム (後期)

「専修大学国際交流会館」にレジデント・パートナー (RP) として9月から約6か月間入寮し、異文化理解や国際コミュニケーション力を養います。また、後期のコースでは、留学生との協働学習を行う SiU インターナショナルプログラムにも参加します。本プログラムでは、日本文化やビジネスについて留学生と共に英語で学習し、国内にいながらにして海外留学体験ができるだけでなく、課題に対する多面的な理解や複眼的な思考力を習得し、密度の濃い学びにつなげることができます。

SiU インターナショナルプログラムは、令和8年度からグローバルスタディ (日本研究) (1単位) として開講され、履修者には成績評価が行われます。

履修科目

グローバルスタディ (日本研究) 1単位

⑧東南アジア・スタディツアー

本スタディツアーは、オンライン学習と海外渡航を組み合わせた特徴のある留学プログラムです。国際交流協定校であるタイ商工会議所大学による英語での講義を通じて、東南アジアの社会や文化への理解を深めます。(令和7年11月現在)

前半の3日間は、オンラインでタイ商工会議所大学と接続し、現地教員によるレクチャーを受講します。その後、タイへ渡航し、現地で文化や言語、地球規模の社会課題について学びます。

東南アジア・スタディツアー



さらに、現地学生との交流やディスカッションを通じて、相互理解を促進し、タイ社会や国際的な課題への洞察を深めることができます。

単位認定

グローバルスタディ（東南アジア研究） 2単位

◎評価は留学先発行の成績や習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。

◎Si 基礎科目の卒業要件単位として修得することができます。ただし、東南アジア・スタディツァー2度目の参加者については対象となりません。

◎研修参加が決定した後に、履修手続きを行います。

IV 外国人留学生の特例履修科目

外国人留学生のみなさんの学修がスムーズに行えるよう、本学では留学生のための科目を次の通り設置しています。

(1) 教養科目・留学生専修科目

1年次（必修科目）

一般日本事情1 一般日本事情2 半期 2科目 4単位

(2) 外国語科目・日本語科目

1年次（必修科目）

日本語文章理解1 → 日本語文章理解2 半期 2科目 2単位

日本語音声理解1 → 日本語音声理解2 半期 2科目 2単位

日本語口頭表現1 → 日本語口頭表現2 半期 2科目 2単位

日本語文章表現1 → 日本語文章表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎矢印(→)で結ばれた科目(例えば、日本語文章理解1 → 日本語文章理解2)は、同一曜日・時限、同一担当者の科目をセットで履修します。ただし、前期に単位を修得できなかった場合は、後期の履修登録が削除されます。

2年次以上（選択科目）

応用日本語理解1 応用日本語理解2 半期 2科目 2単位

応用日本語表現1 応用日本語表現2 半期 2科目 2単位

注意事項

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2を履修するためには、前年度までに日本語文章理解1, 日本語文章理解2, 日本語音声理解1, 日本語音声理解2, 日本語口頭表現1, 日本語口頭表現2, 日本語文章表現1, 日本語文章表現2の単位を全て修得していなければなりません。

◎応用日本語理解1, 2および応用日本語表現1, 2は、同一年度に同じ科目を重複して履修することはできませんが、年度を変えれば、それぞれの1で3科目3単位, 2で3科目3単位まで履修することができます。

◎母語の科目を、外国語科目(世界の言語と文化, 言語文化研究を除く)として履修することはできません。

V 単位互換科目

単位互換科目は、専修大学に在学する正規の学部学生が、単位互換協定を締結している他大学等で開講されている授業科目を履修し、修得した単位を本学で認定する際に用いられる授業科目です。他大学の特色ある授業に触れ、学びの幅を広げることができる貴重な機会となります。

現在、人間科学部では、単位互換協定を締結している大学がないため、現時点で利用することはできません。ただし、今後新たに他大学等と協定を締結した場合には、あらためてお知らせします。

第3章

専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか

心 理 学 科

社 会 学 科

専門科目では何を学ぶか

人間科学部は、2010年に文学部から分離して心理学科と社会学科の二学科編成で発足しました。しかし1966年に発足した文学部人文学科には両学科の前身となる心理学コースと社会文化コースが設置されていたので、両学科の専門教育はすでに60年以上の伝統があることになります。

人間科学部ではディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)として皆さんが在学中に身につけるべき能力として次のように定めています。

本学部の心理学科、社会学科がそれぞれに規定する所定の卒業要件単位を学則で定める在籍期間中に修得することによって、幅広い教養と豊かな人間性を有し、専門分野に関しては、実験・観察・調査を軸として、科学的・実証的に人間の理解を目指し、人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム(因果関係)を解明する領域を総合的に学び、主体的に社会を支え活動できる能力を養い、高度な専門性を身に付けた者に対し、心理学科では学士(心理学)の、社会学科では学士(社会学)の学位を授与します。

ここに見られるように本学部の専門科目の履修をつうじて「科学的・実証的に人間の理解を目指し、人間の心と社会に生起するさまざまな現象のメカニズム(因果関係)を解明する領域を総合的に学び、主体的に社会を支え活動できる能力を養い、高度な専門性を身につけること」が要求されています。

人間科学部のきわだった特徴は、それぞれの学年に少人数教育を徹底した演習形式の科目が配置されており、実験・実習・ゼミナールなどによって科学的な研究方法を身につけ、最終年度には卒業論文を提出することが卒業要件に含まれている点にあります。そのため演習形式で行われる必修の実験・実習科目の履修には十分な意欲と努力が必要とされます。

また両学科とも講義形式による多彩な専門科目が展開されており、これらを広く学ぶことによって専門的な知識をしっかりと身につけていかねばなりません。

どちらの学科も積み上げによる学修効果を期待してカリキュラムが編成されているので、次ページ以降の説明を良く理解して、自分なりの学修計画を立てていってください。

心理学科

I 心理学科の学生のために

1. 心理学科の特色

心理学は人間性の理解をめざす学問分野の1つであり、人間の意識や行動、そしてそれをもたらす精神活動や心理的機能について、実証的・科学的に解明していくことをめざしています。わたしたちの意識や行動は、物的・対人的・社会的・文化的な環境とのかかわりで生じますが、一方、精神活動や心理的機能は、わたしたちの身体、特に脳・神経系を基盤にして営まれていると考えられます。その意味で、心理学は人文科学・自然科学・社会科学の接点に位置しており、方法や技法の点でも、心理学独自のものに加えて、諸科学のものを取り入れながら、学際的に研究が進められています。

以上の枠組みにしたがって、次のような教育が提供されます。心理学のさまざまな領域でこれまでに蓄積されてきた研究成果や、展開されてきた理論を習得するとともに、実証科学としての心理学の研究方法を実習を通して体得し、現代の心理学の諸問題について、みずから主体的に思考し、みずから立案した実証的な研究を通してその思考を妥当化する試みを体験することができる教育です。

この教育が目標とするところは、次のような人材の育成にあります。

- ① 大学院へ進学し、将来研究者として心理諸科学の進歩に寄与しうる人材
- ② 学部卒業後もしくは大学院へ進学した後に「公認心理師」をはじめとする心理系の資格を取得し、広くひとのこころの健康のために貢献しうる人材
- ③ 国家・地方公務員として、あるいは民間企業の中で、心理学の知識を活かしながら、各部門で責任ある指導的役割を果たしうる人材
- ④ 心理学とは直接には関連しない職責にあっても、心理学教育を受けたことで獲得した人間と科学に対する深い理解をもつ常識ある人材

2. 1年次でどう学ぶか

大学における学修は、高校時代までのようにあらかじめ設定された時間割にしたがって教員から一方的に与えられるものを受動的に受け入れるというかたちをとるのではなく、みずからの志向に合わせて主体的に科目の選択を行い、学修対象に積極的にはたらきかけながら学び取るという姿勢でなされてはじめて実を結ぶこととなります。これは、「社会知性基盤科目」「教養科目」「専門科目」のいずれについても異なることはありません。これまでの受け身の学修法を払拭して、知識を学問として、すなわち体系的・理論的・体験的に学び、主体的能動的に考えぬくという学修態度をぜひ体得してください。

卒業までに124単位以上を修得しなければなりません。1年次には修得単位の目安を38単位とし、これを充たすように履修計画を立ててください。

「専門科目」は、1年次には「心理学概論」「臨床心理学概論」「心理学データ解析1（心理学統計法）」「心理学データ解析2」「心理学基礎実験1（心理学実験）」の5科目が必修です。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な要件と、科目の具体的な履修方法について概説します。よく読んで、これに沿って履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要ですが（一般的な要件については、p. 25「大学卒業の要件と科目の履修」を参照）、心理学科生は以下の表に示した要件を充たす必要があります。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上で、あらためてこの表を確認してください。

人間科学部心理学科

| 区 分 | | 卒業要件単位 | | 備 考 |
|-------------|-------------|--------|----|---|
| 社会知性基盤科目 | S i 基礎科目 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・自由選択修得要件単位には、社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」、「データサイエンス入門」は必履修科目です。 |
| | S i 応用科目 | | | |
| 教 養 科 目 | 人文科学基礎科目 | 8 | 10 | |
| | 社会科学基礎科目 | | | |
| | 自然科学系科目 | | | |
| | 保健体育系科目 | 2 | | |
| 外 国 語 科 目 | 英 語 | 4 | 8 | |
| | 英語以外の外国語 | 4 | | |
| | 海外語学研修 | | | |
| 単 位 互 換 科 目 | | | | |
| 専 門 科 目 | 必 修 科 目 | 32 | 84 | |
| | 選 択 必 修 科 目 | 32 | | |
| | 選 択 科 目 | 20 | | |
| 自由選択修得要件単位 | | 22 | | |
| 卒 業 要 件 単 位 | | 124 | | |

[心理学科]

| 区 分 | | 卒業要件単位 | | 備 考 |
|-------------|-------------|--------|----|---|
| 社会知性基盤科目 | S i 基礎科目 | | | ・自由選択修得要件単位には、社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「専修大学入門ゼミナール」、「データサイエンス入門」は必履修科目です。 |
| | S i 応用科目 | | | |
| 教 養 科 目 | 留学生専修科目 | 4 | 10 | |
| | 人文科学基礎科目 | 4 | | |
| | 社会科学基礎科目 | | | |
| | 自然科学系科目 | | | |
| | 保健体育系科目 | 2 | | |
| 外 国 語 科 目 | 日 本 語 | 8 | 8 | |
| | 母語以外の外国語 | | | |
| | 海 外 語 学 研 修 | | | |
| 単 位 互 換 科 目 | | | | |
| 専 門 科 目 | 必 修 科 目 | 32 | 84 | |
| | 選 択 必 修 科 目 | 32 | | |
| | 選 択 科 目 | 20 | | |
| 自由選択修得要件単位 | | 22 | | |
| 卒 業 要 件 単 位 | | 124 | | |

[心理学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってください。

- ① 「教養科目」10単位以上、「外国語科目」8単位以上、「専門科目」84単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」22単位以上、合計124単位以上を修得してください。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この指針にもかなうように毎年の履修計画を立ててください。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修してください。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましいです。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できません。また、一度に同一名称の科目を2つ以上履修することや、一部の科目を除き一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することはできません。

以上の点を考慮し、自分の興味と関心にしがたって自由に意欲的な時間割を組んでください。さらに具体的な履修方法については以下に詳説しますが、まず、pp.80～82の「心理学科科目一覧」を概観して、カリキュラムの全体像を把握してください。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目がありますので、履修に際しては注意してください。それぞれの課程については、社会知性基盤科目は pp.37～41 に、教養科目については、pp.43～50 に、外国語科目については pp.51～64 に、単位互換科目については p.66 に詳しい説明がありますので、参考にして以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」、「データサイエンス入門」は、1年次の必修履修科目です。「専修大学入門ゼミナール」は、単位を修得できなかった場合でも、次年度以降履修することができます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

上記以外の S i 基礎科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② S i 応用科目

S i 応用科目は、選択科目として履修できます。修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から 8 単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 1, 2 年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 3, 4 年次で履修できません。自然科学系科目は 1 年次から 4 年次まで開講されます。

8 単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1 年次に「スポーツリテラシー」、「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語

1 年次で英語 4 科目を履修し、前期 2 単位・後期 2 単位の計 4 単位を必ず修得してくだ

さい。A群の Basics of English (RL) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (RL) 1a (前期), 1b (後期) の2科目と, B群の Basics of English (SW) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (SW) 1a (前期), 1b (後期) の2科目を履修してください。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して, 前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければなりません。初級1a(前期), 初級1b(後期)の2科目と, 初級2a(前期), 初級2b(後期)の2科目を履修してください。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

4) 単位互換科目

修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

開講される具体的な科目名称等については, pp. 99~100「人間科学部専門科目一覧」を見てください。

科目の中には, 必ず単位を修得しなければならない「必修科目」(上記一覧で○印のついている科目), 開講された科目中から指定された科目数・単位数だけ修得する必要がある「選択必修科目」(◎印のついている科目), 多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる「選択科目」(△印のついている科目), 人間科学部社会科学の一部専門科目「他学科専門科目」(#印のついている科目)の4通りがあります。

なお, 科目の中には, 年間を通して授業を行う「通年科目」と, 半年で終了する「半期科目」とがあります。また, 毎年開講する科目の他に, 隔年で開講される「隔年科目」が置かれる場合があります。履修計画を立てる上で注意してください。

① 必修科目

必修科目としては, 「心理学基礎実験1 (心理学実験)」(1年次・2単位), 「心理学概論・臨床心理学概論」(1年次・各2単位), 「心理学データ解析1 (心理学統計法)・心理学データ解析2」(1年次・各1単位), 「心理学基礎実験2」(2年次・4単位), 「心理学実験演習1」(3年次・4単位), 「心理学講読1」(3年次・4単位), 「心理学実験演習2」(4年次・4単位), 「卒業論文」(4年次・8単位)があります。原則として, それぞれの配当年次に履修してください。

心理学基礎実験1 (心理学実験) 標準化された心理学実験・心理テスト・調査を中心に, その実施方法, 得られたデータの整理・処理法, さらに処理結果を評価し, レポートにまとめる手順についての実習を行います。

心理学概論・臨床心理学概論 広範な心理学の諸領域の研究を理解する上で必要な心理学の基礎的な概念が解説されます。

心理学データ解析 1 (心理学統計法)・心理学データ解析 2 科学としての心理学の出発点であるデータの測定法と分析法の基礎について学修します。

心理学基礎実験 2 「心理学基礎実験 1 (心理学実験)」をさらに発展させた技法と概念を実習します。

心理学実験演習 1 心理学のいくつかの研究領域について、その領域固有の問題を、その領域固有の方法で実習します。研究の立案からその実施・分析・報告まで、1年を通して指導します。これは卒業論文作成のための基礎となるものですので、原則として、「心理学基礎実験 2」が履修済みであることが前提です。なお、同一年度に「心理学実験演習 1」を複数（並列で）履修することはできません。また、「心理学実験演習 1」の単位を修得しない限り、4年次配当の必修科目である「心理学実験演習 2」の履修はできません。そのため、3年次にこの単位を修得できなければ、4年次に「心理学実験演習 2」を履修できず、4年間で卒業することが不可能になります。

心理学講読 1 指導教員別に小グループで特定のテーマの下に、重要文献の講読や、文献研究等を行います。

心理学実験演習 2 「心理学実験演習 1」をさらに発展させて研究を進めて論文にまとめます。「心理学実験演習 1」の単位を修得していることが必須となります。原則として、「卒業論文」の指導教員が担当する授業を履修します。また、研究テーマを大きく変更した場合を除き、自分自身が受講した「心理学実験演習 1」の担当教員が展開する「心理学実験演習 2」を履修してください。加えて、「心理学実験演習 1」同様に、同一年度に「心理学実験演習 2」を複数（並列で）履修することはできません。

卒業論文 これまで学修してきたことを足場にして、各自のテーマについて自分なりの研究成果を、所定の様式にしたがって論文の形に仕上げます。

「卒業論文」は4年間の学修の総決算であり、学んできたことの最大の証となるものです。何かを学んだという実感が残る論文を書き上げるよう、取り組んでください。そのためには、学問のレベルを突破しようとする野心をもって臨まなければなりません。

各人のテーマによって指導教員が決まるので、「心理学実験演習 1」の担当教員とよく相談してください（4年次になると何かと対外的に忙しくなるので計画性をもってください）（「卒業論文」については、p.31参照）。なお、「心理学実験演習 2」の履修ができない学生には、「卒業論文」の提出は認めません。また、「卒業論文」の作成にあたり、その進捗状況を報告する中間発表を義務づけます。

所定の単位を修得し、中間発表を行い「卒業論文」を提出し、その口述試験に合格して初めて学士（心理学）の学位が与えられることになります。

② 選択必修科目

1・2年次に配当されている「心理学コンピュータ実習 1・2」「心理学研究法」、2・3年次に配当されている「知覚心理学 1・2」「認知心理学 1 (知覚・認知心理学)・2」「学習心理

学1（学習・言語心理学）・2」「生理心理学1・2（神経・生理心理学）」「発達心理学1（発達心理学）・2」「社会心理学1・2（社会・集団・家族心理学）」「人格心理学1（感情・人格心理学）・2」「臨床心理学1（心理学的支援法）・2」「犯罪心理学1（司法・犯罪心理学）・2」「リハビリテーション心理学」「発達臨床心理学1」の20科目、3・4年次に配当されている「心理測定学」「ベイズ統計学」「障害者・障害児心理学」「応用行動分析学」「心理カウンセリング」「福祉心理学」「発達臨床心理学2」「心理的アセスメント」、4年次に配当されている「心理学講読2」、計32科目のうちから15または16科目32単位を必ず修得しなければなりません。

これらの科目は、発展的なデータの解析手法や情報処理技能の修得、文献研究や重要文献の輪読、心理学の諸領域（各論）におおよそ該当している講義からなっています。

配当年次が複数にわたる科目は、計画的になるべく低年次で履修する方が望ましいです。

③ 選択科目

「専門科目」の「卒業要件単位」は84単位ですが、このうち「必修科目」で32単位、「選択必修科目」で32単位、計64単位が充当されるので、残り20単位は「選択科目」によって充当することになります。

(a) 「基礎心理学特殊講義A～J」と「心理学特殊講義K～P」は、「選択必修科目」の各論的講義においてはカバーできない発展的な特殊問題・領域を取り上げる講義となります。また「精神医学1（精神疾患とその治療）・精神医学2」と「心理演習」「心理実習」は、臨床心理学を深めるための医学的内容の講義と臨床心理学諸領域に関する演習・実習の授業です。

「基礎心理学特殊講義A～J」と「心理学特殊講義K～P」は、個々の講義の内容が年度ごとに変わる可能性があるため、講義要項（シラバス）を参照してください。心理学のどの側面に関心を持ち、学修・研究をしたいかに応じて、選択してください。

(b) 前記「選択必修科目」の項であげられた科目のうち、32単位を超えて修得した場合、それらはすべて「選択科目」の単位として算定されます。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

「自由選択修得要件単位となる科目」とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに修得する必要がある22単位分の科目の総称です。「自由選択修得要件単位となる科目」に算入されるのは以下の8つです。

- a. 社会知性基盤科目に配置された科目の単位。
- b. 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- d. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した心理学科開講の専門科目の単位。
- e. 心理学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- f. 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。（8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- g. 心理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。（22単位まで）
- h. 単位互換科目の単位。

「自由選択修得要件単位となる科目」は、科目区分にとらわれず、自由に履修する科目です。それぞれの興味と関心に応じ、自由で独創的なカリキュラムを組んでください。「卒業要件単位」(計124単位)というのは、あくまで卒業に必要な最低限の学修量を示すに過ぎません。人間性の理解にあたっては、広い視野と多角的な視点をもつ必要がありますので、各自の興味と関心の広がりに応じて、選択履修の幅をさらに広げることが望ましいです。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

心理学科の「必修科目」は、専門の10科目32単位です。単位を指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修してください。「再履修」の必修科目はすべてに優先して履修してください。

なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできません。

② 選択必修科目・選択科目の再履修

「選択必修科目」「選択科目」の単位を履修登録年次に修得できなかった場合は、翌年次以降に必ずしも同一名称の科目を「再履修」する必要はありません。別の科目の単位を修得して「卒業要件単位」を充たすことが可能です。

(5) 資格取得を希望する者に対する履修上の注意

① 「公認心理師」について：公認心理師国家資格の取得を希望して、国家試験の受験資格を得ようとする場合、大学において公認心理師となるために必要な科目25科目を修めて卒業した後、①大学院において必要な科目を修めてその課程を修了する、または②認定された施設においてプログラムに基づいて実務を経験する必要があります。

本学においては、公認心理師となるために必要な25科目の全てが開講されますが、科目によっては履修できる年次が限られていることに留意し、公認心理師の資格取得を希望する者は、1年次から計画的に履修することが望ましいです。p.79に公認心理師となるために大学において必要な25科目一覧を示します。

特に以下の実習演習科目4科目については、履修にあたっては授業内容と履修要件を必ず確認してください。

心理演習 3年次配当科目。授業期間中の定時授業において、心理に関する支援の具体的な場面を想定したシミュレーションや実際の事例を検討すること等を行い、公認心理師に必要な知識や技能を身につけます。心理演習の履修者の上限は30名です。履修希望者が30名を超えた場合には、単位修得状況と学業成績による選抜を行います。

心理実習 4年次配当科目。医療機関等において、公認心理師の行う心理支援とそのチームアプローチや様々な職種との連携について実習指導を受けます。前期及び後期の授業期間以外にも、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働という5つの分野に関する施設における見学等の実習を夏期休業期間中にも実施します。また、定時授業以外で見学実習の前後に行われる指導も受けなければなりません。実習時間は合計80時間を超えるものとなります。この科目を履修するにあたっては、「心理演習」の単位を修得していることが必要です。また、この

科目の履修にあたっては、所定の期限までに実習指導費を納入しなければなりません。心理実習の履修者の上限は30名です。履修希望者が30名を超えた場合には、単位修得状況と学業成績による選抜を行います。

- ② 「認定心理士」について：卒業後、社団法人日本心理学会「認定心理士」の資格取得を希望する場合は、同学会が指定する科目を履修して単位を修得し、認定を受けなくてはなりません。認定心理士の認定申請は、大学を卒業した後で資格取得希望者が個人で申し込むこととなります。認定は各人によって提出された書類に基づいて行われます。本学も卒業生が認定された実績は多く、対応する心理学関係科目は随時大学のホームページを通じてお知らせします。
- ③ 「臨床心理士」について：将来、財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の資格取得をめざす場合は、原則として、大学院（心理学専攻）の修士課程を修了しなければなりません。学部段階においても、ある程度広い範囲におよぶ基礎的な知識および技能を習得しておくことが要望されています。その範囲は、上記「公認心理師」となるために必要な科目範囲に準じるものです。
- ④ その他の資格について：学会や協会が認定する資格で、本学心理学科が資格試験の受験資格を得るために認定・指定を受けているもの、科目について対応しているもの等があり、関連する授業等で都度紹介されます。受験資格は変更されることがあるので、興味がある者はそれぞれの学会や協会のホームページなどで最新の情報を収集してください。「産業カウンセラー」（一般社団法人日本産業カウンセラー協会）、「大学認定睡眠改善インストラクター」（一般社団法人日本睡眠改善協議会）等。

大学において公認心理師となるために必要な科目 25 科目一覧

| | 公認心理師法が定める「大学における必要な科目」 | 心理学科における該当科目 | 配当年次 | 必修/選択 |
|----|---------------------------|-----------------------|---------|-------|
| 1 | 公認心理師の職責 | 公認心理師の職責 | 1・2・3・4 | 選択 |
| 2 | 心理学概論 | 心理学概論 | 1 | 必修 |
| 3 | 臨床心理学概論 | 臨床心理学概論 | 1 | 必修 |
| 4 | 心理学研究法 | 心理学研究法 | 1・2 | 選択必修 |
| 5 | 心理学統計法 | 心理学データ解析 1 (心理学統計法) | 1 | 必修 |
| 6 | 心理学実験 | 心理学基礎実験 1 (心理学実験) | 1 | 必修 |
| 7 | 知覚・認知心理学 | 認知心理学 1 (知覚・認知心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 8 | 学習・言語心理学 | 学習心理学 1 (学習・言語心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 9 | 感情・人格心理学 | 人格心理学 1 (感情・人格心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 10 | 神経・生理心理学 | 生理心理学 2 (神経・生理心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 11 | 社会・集団・家族心理学 | 社会心理学 2 (社会・集団・家族心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 12 | 発達心理学 | 発達心理学 1 (発達心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 13 | 障害者・障害児心理学 | 障害者・障害児心理学 | 3・4 | 選択必修 |
| 14 | 心理的アセスメント | 心理的アセスメント | 3・4 | 選択必修 |
| 15 | 心理学的支援法 | 臨床心理学 1 (心理学的支援法) | 2・3 | 選択必修 |
| 16 | 健康・医療心理学 | 心理学特殊講義 N (健康・医療心理学) | 3・4 | 選択 |
| 17 | 福祉心理学 | 福祉心理学 | 3・4 | 選択必修 |
| 18 | 教育・学校心理学 | 心理学特殊講義 P (教育・学校心理学) | 3・4 | 選択 |
| 19 | 司法・犯罪心理学 | 犯罪心理学 1 (司法・犯罪心理学) | 2・3 | 選択必修 |
| 20 | 産業・組織心理学 | 心理学特殊講義 O (産業・組織心理学) | 3・4 | 選択 |
| 21 | 人体の構造と機能及び疾病 | 人体の構造と機能及び疾病 | 1・2・3・4 | 選択 |
| 22 | 精神疾患とその治療 | 精神医学 1 (精神疾患とその治療) | 3・4 | 選択 |
| 23 | 関係行政論 | 関係行政論 | 1・2・3・4 | 選択 |
| 24 | 心理演習 | 心理演習 注 1) | 3 | 選択 |
| 25 | 心理実習 (実習の時間が八十時間以上のものに限る) | 心理実習 注 1), 注 2) | 4 | 選択 |

注 1 履修の上限は 30 名です。履修が 30 名を超えた場合には、単位修得状況と学業成績による選抜を行います。心理演習と心理実習は、全ての授業への出席とともに授業外での活動も必要になりますので、全ての授業の出席や授業時間外の演習・実習活動が難しい場合は履修を勧めません。

注 2 履修にあたり、心理演習の単位を修得している必要があります。

人間科学部心理学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

| 区分 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 卒業要件単位 | 備考 | | | |
|------------|--------------------|--|--|--|--|--|---|---|--|
| 社会知性基盤科目 | 専修大学入門ゼミナール | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます (同一年度での複数履修も可能)。 S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合は作成 (履修) することができます。 | | | |
| | データサイエンス入門 | | | | | | | | |
| | データサイエンス実践 | | | | | | | | |
| | | A I基礎 | | | | | | | |
| | | データサイエンス活用演習 | | | | | | | |
| | キャリア入門 | | | | | | | | |
| | キャリアマッチング | | | | | | | | |
| | キャリア長期体験 (プロジェクト型) | | | | | | | | |
| | | キャリア科目1 | | | | | | | |
| | | キャリア科目2 | | | | | | | |
| S i応用科目 | グローバルスタディ (1) | グローバルスタディ | グローバルスタディ (3) | グローバルスタディ (4) | | | | | |
| | | 分野横断科目 | | | | | | | |
| | | S iゼミナール1 (4) | S iゼミナール2 (4) | S iゼミナール3 (4) | | | | | |
| 教養科目 | 人文科学基礎科目 | 日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点 | 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 哲学 倫理学 論理学入門 とばと論理 | 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代 | | <ul style="list-style-type: none"> 卒業要件単位 10 単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 アドバンススポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も履修にかかわらず履修することができます (修得単位の上限はありません)。 | | | |
| | 社会科学基礎科目 | 日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済 | 地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会学論 社会思想 教育学入門 | 子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシック 企業と会計 | | | | | |
| | 自然科学系科目 | あなたと自然科学 自然科学実験演習 1 自然科学実験演習 2 (4) | 生物科学 C 1 生物科学 C 2 宇宙地球科学 A 1 宇宙地球科学 A 2 宇宙地球科学 B 1 宇宙地球科学 B 2 | 化学 A 1 化学 A 2 化学 B 1 化学 B 2 物理学 A 1 物理学 A 2 | 物理学 B 1 物理学 B 2 数理科学 A 1 数理科学 A 2 数理科学 B 1 数理科学 B 2 | | 数理科学 C 1 数理科学 C 2 科学論 A 1 科学論 A 2 科学論 B 1 科学論 B 2 | | |
| | 保健体育系科目 | スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1) | | | | | 2 | | |
| | 英語 | A Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1) | Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1) | General English (1) | | | | 4 | |
| | | English Speaking a (1) English Speaking b (1) | Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1) | Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1) | | | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 English Speaking a・b、Advanced English a・b、English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。 | |
| | | Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b | English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 同一言語の科目をすべて (4科目4単位) 履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。 | |
| | | ドイツ語初級 1 a (1) ドイツ語初級 1 b (1) ドイツ語初級 2 a (1) ドイツ語初級 2 b (1) フランス語初級 1 a (1) フランス語初級 1 b (1) フランス語初級 2 a (1) フランス語初級 2 b (1) 中国語初級 1 a (1) 中国語初級 1 b (1) 中国語初級 2 a (1) 中国語初級 2 b (1) スペイン語初級 1 a (1) スペイン語初級 1 b (1) スペイン語初級 2 a (1) スペイン語初級 2 b (1) ロシア語初級 1 a (1) ロシア語初級 1 b (1) ロシア語初級 2 a (1) ロシア語初級 2 b (1) インドネシア語初級 1 a (1) インドネシア語初級 1 b (1) インドネシア語初級 2 a (1) インドネシア語初級 2 b (1) コリア語初級 1 a (1) コリア語初級 1 b (1) コリア語初級 2 a (1) コリア語初級 2 b (1) | ドイツ語中級 1 a (1) ドイツ語中級 1 b (1) ドイツ語中級 2 a (1) ドイツ語中級 2 b (1) フランス語中級 1 a (1) フランス語中級 1 b (1) フランス語中級 2 a (1) フランス語中級 2 b (1) 中国語中級 1 a (1) 中国語中級 1 b (1) 中国語中級 2 a (1) 中国語中級 2 b (1) スペイン語中級 1 a (1) スペイン語中級 1 b (1) スペイン語中級 2 a (1) スペイン語中級 2 b (1) | ロシア語中級 1 a (1) ロシア語中級 1 b (1) ロシア語中級 2 a (1) ロシア語中級 2 b (1) インドネシア語中級 1 a (1) インドネシア語中級 1 b (1) インドネシア語中級 2 a (1) インドネシア語中級 2 b (1) コリア語中級 1 a (1) コリア語中級 1 b (1) コリア語中級 2 a (1) コリア語中級 2 b (1) | | | | 8 | |
| | 英語以外の外国語 | | ドイツ語中級 1 a (1) ドイツ語中級 1 b (1) ドイツ語中級 2 a (1) ドイツ語中級 2 b (1) フランス語中級 1 a (1) フランス語中級 1 b (1) フランス語中級 2 a (1) フランス語中級 2 b (1) 中国語中級 1 a (1) 中国語中級 1 b (1) 中国語中級 2 a (1) 中国語中級 2 b (1) スペイン語中級 1 a (1) スペイン語中級 1 b (1) スペイン語中級 2 a (1) スペイン語中級 2 b (1) | ドイツ語中級 1 a (1) ドイツ語中級 1 b (1) ドイツ語中級 2 a (1) ドイツ語中級 2 b (1) フランス語中級 1 a (1) フランス語中級 1 b (1) フランス語中級 2 a (1) フランス語中級 2 b (1) 中国語中級 1 a (1) 中国語中級 1 b (1) 中国語中級 2 a (1) 中国語中級 2 b (1) スペイン語中級 1 a (1) スペイン語中級 1 b (1) スペイン語中級 2 a (1) スペイン語中級 2 b (1) | ロシア語中級 1 a (1) ロシア語中級 1 b (1) ロシア語中級 2 a (1) ロシア語中級 2 b (1) インドネシア語中級 1 a (1) インドネシア語中級 1 b (1) インドネシア語中級 2 a (1) インドネシア語中級 2 b (1) コリア語中級 1 a (1) コリア語中級 1 b (1) コリア語中級 2 a (1) コリア語中級 2 b (1) | | | | <ul style="list-style-type: none"> 各科目2単位まで修得することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 |
| | | | | ドイツ語上級 1 a (1) ドイツ語上級 1 b (1) フランス語上級 1 a (1) フランス語上級 1 b (1) 中国語上級 1 a (1) 中国語上級 1 b (1) スペイン語上級 1 a (1) スペイン語上級 1 b (1) | ロシア語上級 1 a (1) ロシア語上級 1 b (1) インドネシア語上級 1 a (1) インドネシア語上級 1 b (1) コリア語上級 1 a (1) コリア語上級 1 b (1) | | | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 各科目、同一年度に2単位、年度を超えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで修得することができます。 |
| | | 選択ドイツ語 1 a (1) 選択ドイツ語 1 b (1) 選択フランス語 1 a (1) 選択フランス語 1 b (1) 選択中国語 1 a (1) 選択中国語 1 b (1) | 選択スペイン語 1 a (1) 選択スペイン語 1 b (1) 選択コリア語 1 a (1) 選択コリア語 1 b (1) 選択アラビア語 1 a (1) 選択アラビア語 1 b (1) | 選択イタリア語 1 a (1) 選択イタリア語 1 b (1) | | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 選択1 a・bを履修する場合には、同一言語の選択1 a・bをセットで履修してください。 「選択」と選択1 a・bの両者を履修する場合は、同一言語を履修することはできません。 | | |
| | | 世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語) | 世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語) | 世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語) | 世界の言語と文化 (コリア語) | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 | | |
| 海外語学研修 | 海外語学短期研修 1 (外国語) | 海外語学短期研修 2 (外国語) | | | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定されます。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。 | | | |
| | | 海外語学中期研修 1 (外国語) 海外語学中期研修 2 (外国語) 海外語学中期研修 3 (外国語) | 海外語学中期研修 4 (外国語) 海外語学中期研修 5 (外国語) 海外語学中期研修 6 (外国語) | 海外語学中期研修 7 (外国語) 海外語学中期研修 8 (外国語) | | | | | |
| 単位互換科目 | 単位互換 1 | 単位互換 2 (4) | 単位互換 3 (1) | | | <ul style="list-style-type: none"> 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます (同一年度での複数履修も可能)。 | | | |
| 自由選択修得要件単位 | | | | | 22 | | | | |

心理学

【外国人留学生】人間科学部心理学科 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

| 区分 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 卒業要件単位 | 備考 |
|------------|---|---|---|---|---------------------------------------|---|
| 社会知性基盤科目 | 専修大学入門ゼミナール | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 ・S1ゼミナール論文は、S1ゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS1ゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。 |
| | データサイエンス入門 | | | | | |
| | データサイエンス実践 | | | | | |
| | | A1基礎 | | | | |
| | | データサイエンス活用演習 | | | | |
| | キャリア入門 | | | | | |
| | キャリアマッチング | | | | | |
| | キャリア長期体験(プロジェクト型) | | | | | |
| | | キャリア科目1 | | | | |
| | | キャリア科目2 | | | | |
| Si応用科目 | グローバルスタディ (1) | グローバルスタディ | グローバルスタディ (3) | グローバルスタディ (4) | | |
| | | 分野横断科目 | Siゼミナール2 (4) | Siゼミナール3 (4) | | |
| 留学生専修科目 | 一般日本事情1 | 一般日本事情2 | | | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件単位10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンススポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も科目にかかわらず履修することができます(修得単位の上限はありません)。 |
| | 人文科学基礎科目 | 日本の文化 歴史と地域・民衆 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視座 | 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代 | | | |
| 社会科学基礎科目 | 日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済 | 地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 | 子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計 | | 4 | |
| | 自然科学系科目 | あなたと自然科学 自然科学実験演習1 生物科学C1 自然科学実験演習2(4) 生物科学A1 生物科学A2 生物科学B1 生物科学B2 | 化学A1 化学A2 化学B1 化学B2 物理学A1 物理学A2 | 物理学B1 物理学B2 数理科学A1 数理科学A2 数理科学B1 数理科学B2 | 数理科学C1 数理科学C2 科学論A1 科学論A2 科学論B1 科学論B2 | |
| 保健体育系科目 | スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1) | | | | 2 | |
| | | アドバンススポーツ (ウェルビーイング) | スポーツ論 (サステナブルスポーツ) スポーツ論 (ハイパフォーマンススポーツ) | | | |
| 日本語 | 日本語文理解1 (1) 日本語文理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1) | | | | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・日本語「導入」から8科目8単位を修得していなければ、履修することができません。 |
| | | 応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1) | | | | |
| 外国語科目 | A Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1) | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで修得することができます。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は、2単位まで修得することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は、同一年度に2単位、年度を超えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで修得することができます。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択1a・bを履修する場合には、同一言語の選択1a・bをセットで履修してください。 ・母語以外の外国語「導入」と選択1a・bの両者を履修する場合は、同一言語を履修することはできません。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「海外語学短期研修」は、夏期留学プログラムを修了した後に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合には短期研修2に認定されます。 ・海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。 ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 |
| | B Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1) | | | | | |
| | English Speaking a (1) English Speaking b (1) | Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1) | Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1) | | | |
| | Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b | English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b | | | | |
| | ドイツ語初級1 a (1) ドイツ語初級1 b (1) ドイツ語初級2 a (1) ドイツ語初級2 b (1) フランス語初級1 a (1) フランス語初級1 b (1) フランス語初級2 a (1) フランス語初級2 b (1) | 中国語初級1 a (1) 中国語初級1 b (1) 中国語初級2 a (1) 中国語初級2 b (1) スペイン語初級1 a (1) スペイン語初級1 b (1) スペイン語初級2 a (1) スペイン語初級2 b (1) | ロシア語初級1 a (1) ロシア語初級1 b (1) ロシア語初級2 a (1) ロシア語初級2 b (1) インドネシア語初級1 a (1) インドネシア語初級1 b (1) インドネシア語初級2 a (1) インドネシア語初級2 b (1) | コア語初級1 a (1) コア語初級1 b (1) コア語初級2 a (1) コア語初級2 b (1) | | |
| | ドイツ語中級1 a (1) ドイツ語中級1 b (1) ドイツ語中級2 a (1) ドイツ語中級2 b (1) フランス語中級1 a (1) フランス語中級1 b (1) フランス語中級2 a (1) フランス語中級2 b (1) | 中国語中級1 a (1) 中国語中級1 b (1) 中国語中級2 a (1) 中国語中級2 b (1) スペイン語中級1 a (1) スペイン語中級1 b (1) スペイン語中級2 a (1) スペイン語中級2 b (1) | ロシア語中級1 a (1) ロシア語中級1 b (1) ロシア語中級2 a (1) ロシア語中級2 b (1) インドネシア語中級1 a (1) インドネシア語中級1 b (1) インドネシア語中級2 a (1) インドネシア語中級2 b (1) | コア語中級1 a (1) コア語中級1 b (1) コア語中級2 a (1) コア語中級2 b (1) | | |
| | ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1) | | ドイツ語上級1 a (1) ドイツ語上級1 b (1) フランス語上級1 a (1) フランス語上級1 b (1) 中国語上級1 a (1) 中国語上級1 b (1) スペイン語上級1 a (1) スペイン語上級1 b (1) | ロシア語上級1 a (1) ロシア語上級1 b (1) インドネシア語上級1 a (1) インドネシア語上級1 b (1) コア語上級1 a (1) コア語上級1 b (1) | | |
| | | 選択ドイツ語1 a (1) 選択ドイツ語1 b (1) 選択フランス語1 a (1) 選択フランス語1 b (1) 選択中国語1 a (1) 選択中国語1 b (1) | 選択スペイン語1 a (1) 選択スペイン語1 b (1) 選択ロシア語1 a (1) 選択ロシア語1 b (1) 選択アラビア語1 a (1) 選択アラビア語1 b (1) | 選択イタリア語1 a (1) 選択イタリア語1 b (1) | | |
| | 世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語) | 世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語) | 世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語) | 世界の言語と文化(コア語) | | |
| | | 言語文化研究(ヨーロッパ) | 言語文化研究(アジア) | 言語文化研究(アメリカ) | | |
| 海外語学研修 | 海外語学短期研修1(外国語) | 海外語学短期研修2(外国語) | | | | |
| | | 海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語) | 海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語) | 海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語) | | |
| 単位互換科目 | 単位互換1 | 単位互換2 (4) | 単位互換3 (1) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。 |
| 自由選択修得要件単位 | | | | | 22 | |

心理学

人間科学部心理学科専門科目一覧

凡例:○必修、◎選択必修、△選択 ※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単 位 | 備考 |
|--|----------------------|---------------------|--------------------|------------|--------------|----------|--------------|-----|--|------------|
| | 科目名 | 必・選 | 科目名 | 必・選 | 科目名 | 必・選 | 科目名 | 必・選 | | |
| 社会知性基盤科目 | | | | | | | | | 10 | |
| 教養科目 | | | | | | | | | 8 | |
| 外国語科目 | | | | | | | | | | |
| 単位互換科目 | | | | | | | | | | |
| 専 門 科 目 | 心理学基礎実験1(心理学実験) | ○ | 心理学基礎実験2 (4) | ○ | 心理学実験演習1 (4) | ○ | 心理学実験演習2 (4) | ○ | 32 | 10科目32単位必修 |
| | 心理学概論 | ○ | | 心理学講読1 (4) | ○ | 卒業論文 (8) | ○ | | | |
| | 臨床心理学概論 | ○ | | | | | | | | |
| | 心理学データ解析1(心理学統計法)(1) | ○ | | | | | | | | |
| | 心理学データ解析2 (1) | ○ | | | | | | | | |
| | 心理学コンピュータ実習1 | | | ◎ | | | | | 32 | 32単位選択必修 |
| | 心理学コンピュータ実習2 | | | ◎ | | | | | | |
| | 心理学研究法 | | | ◎ | | | | | | |
| | | | 知覚心理学1 | | ◎ | | | | | |
| | | | 知覚心理学2 | | ◎ | | | | | |
| | | 認知心理学1(知覚・認知心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 認知心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | 学習心理学1(学習・言語心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 学習心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | 生理心理学1 | | ◎ | | | | | | |
| | | 生理心理学2(神経・生理心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 発達心理学1(発達心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 発達心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | 社会心理学1 | | ◎ | | | | | | |
| | | 社会心理学2(社会・集団・家族心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 人格心理学1(感情・人格心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 人格心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | 臨床心理学1(心理学的支援法) | | ◎ | | | | | | |
| | | 臨床心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | 犯罪心理学1(司法・犯罪心理学) | | ◎ | | | | | | |
| | | 犯罪心理学2 | | ◎ | | | | | | |
| | | リハビリテーション心理学 | | ◎ | | | | | | |
| | | 発達臨床心理学1 | | ◎ | | | | | | |
| | | | | 心理測定学 | | ◎ | | | | |
| | | | | ベイズ統計学 | | ◎ | | | | |
| | | | | 障害者・障害児心理学 | | ◎ | | | | |
| | | | | 応用行動分析学 | | ◎ | | | | |
| | | | | 心理カウンセリング | | ◎ | | | | |
| | | | | 福祉心理学 | | ◎ | | | | |
| | | | | 発達臨床心理学2 | | ◎ | | | | |
| | | | | 心理的アセスメント | | ◎ | | | | |
| | | | | | 心理学講読2 (4) | ◎ | | | | |
| 公認心理師の職責 | | | | | | | △ | 20 | 20単位選択 専門選択必修科目の 超過修得単位は選択 科目の単位に算入さ れます。 特殊講義(1単位)は複 数回履修することがで きます。 | |
| 人体の構造と機能及び疾病 | | | | | | | △ | | | |
| 関係行政論 | | | | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義A | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義B | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義C | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義D | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義E | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義F | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義G | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義H | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義I | | | | △ | | | |
| | | | 基礎心理学特殊講義J | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義K | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義L | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義M | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義N(健康・医療心理学) | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義O(産業・組織心理学) | | | | △ | | | |
| | | | 心理学特殊講義P(教育・学校心理学) | | | | △ | | | |
| | | | 精神医学1(精神疾患とその治療) | | | | △ | | | |
| | | | 精神医学2 | | | | △ | | | |
| | | | 心理学の思想と歴史1 | | | | △ | | | |
| | | | 心理学の思想と歴史2 | | | | △ | | | |
| | | | 情報処理心理学実習1 | | | | △ | | | |
| | | | 情報処理心理学実習2 | | | | △ | | | |
| | | | 心理演習 | △ | 心理実習 | | △ | | | |
| | | | 特殊講義 (1) | | | | △ | | | |
| 自由選択 修得要件 単位と なる科目 | | | | | | | | 22 | 教養科目、外国語科目、 専門科目の超過修得単 位および社会知性基盤科 目、単位互換科目は自由 選択修得要件単位に算 入されず。 | |
| 心理学科の学生に受講が認められている社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目、人間科学部の専門科目、教職・司書・司書教諭、学校司書課程の科目の一部(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)。全学公開科目。 | | | | | | | | | | |
| 年次修得 単位の 目 安 | 38 | | 38 | | 36 | | 12 | 124 | | |

心理学科

社会学科

I 社会学科の学生のために

1. 社会学科の特色

社会学は現実認識の学として、社会の全体的な構造やその変動の法則、そしてそこに生きる人間そのものを研究するという目的をもっています。こうした目的のもとで、具体的にはさまざまな社会現象を、主として社会関係や社会集団などの「共同生活」の諸側面から、経験的・実証的な方法で研究します。

以上のような考え方にもとづき社会学科では、人びとの日常生活の場を主要な研究・学修の領域とし、そこに現れてくる人間の行為や意識、社会関係や組織などの実態を調査・研究することにより、現代社会の構造とその問題性を明らかにし、それがどこから生じ、どこに行くのか、過去と現在との対話をとおして未来を見とおすことを目指しています。そのために、「文化・システム」系、「生活・福祉」系、「地域・エリアスタディーズ」系という3つのゆるやかに結びあう研究・学修領域を設定しています。

「文化・システム」系では、経験的調査と社会理論、社会構造と社会意識を接続しながら、社会と個人の全体的解明を目指しています。「生活・福祉」系においては、人の生活の場としての「家庭と職場」、人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に、人間生活の基礎的単位の基本的な理解と、それらを踏まえた上での実証的研究を目指しています。「地域・エリアスタディーズ」系領域では、生活が営まれる地域に焦点をあわせ、現代の地域がグローバル化の過程におかれている現状を踏まえ、地域、都市の構造と変容を実証的に研究しています。

この3つの系に専任教員が担当する16の専門的学修分野を配置し、さらに「現実科学としての社会学」「実証科学としての社会学」であることを前提に、調査研究とゼミナール教育を重視したカリキュラムを組んでいます。

社会学科では、①個人的な問題が社会の諸制度とのかかわりの中で生じていることを理解した上で、社会学の知識や理論を修得していること。②社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得し、自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができること。③諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者理解を深めることができること。④これらの能力を総合的に駆使して、社会における実践的な要請に応えるようにすること、を教育目標としています。これらの教育をとおして、(1)社会状況を的確に判断し、企業、自治体、公共機関、教育機関、市民団体、各種調査研究機関、国際機関等々で、現場に立ちながら着実に活動できる人材、(2)大学院に進学し、将来研究者として学問の発展に寄与する人材ならびに専門的職業人の育成を目指しています。

2. 1年次でどう学ぶか

大学での学修は、あらかじめ設定された時間割表が与えられ受動的に履修をする高等学校までの学修とは異なります。自らの関心にあわせて自分で科目を選択し、同時に、決められた卒業要件の必修単位は最低限満たすように、自分で履修を組んでいく必要があります。これは、「社会知性基盤科目」「教養科目」「外国語科目」「単位互換科目」「専門科目」いずれについても同じです。

社会学科が設けている「専門科目」は、基礎科目、基幹科目、応用科目、関連科目、隣接科目で構成されています。また、「講義」・「実習」・「ゼミナール」の3つの授業形式があります。科目の学年配当に留意しつつ、自らの関心や将来の目標に見合った、主体的に学ぶ「私なりの時間割」を作成してください。

卒業までに124単位以上を修得しなければなりません。1年次には修得目標として最低限38単位を目安に、履修計画を立ててください。「教養科目」のうち「人文科学基礎科目」「社会科学基礎科目」は1・2年次にしか開講されていません。「教養科目」のその他の科目についても、上級年次になると専門科目の履修が多くなるので、教養科目はできるだけ低年次で履修しておくことが望まれます。

「専門科目」は、1年次には「専門入門ゼミナール」「社会学原論1, 2」「社会調査の基礎」「データ分析法実習」が必修科目としておかれています。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説します。説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててください。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要ですが(一般的な要件については、p. 25「大学卒業の要件と科目の履修」を参照)、社会学科の学生は、以下の表に示した要件を充たす必要があります。次項「科目の履修方法」を読んで、具体的な履修方法を理解した上でこの表を確認してください。

人間科学部社会学科

| 区 分 | | 卒業要件単位 | | 備 考 |
|-------------|-------------|--------|----|---|
| 社会知性基盤科目 | S i 基礎科目 | 2 | 2 | ・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」と教養科目の「あなたと自然科学」は必履修科目です。 |
| | S i 応用科目 | | | |
| 教 養 科 目 | 人文科学基礎科目 | 8 | 10 | |
| | 社会科学基礎科目 | | | |
| | 自然科学系科目 | | | |
| | 保健体育系科目 | 2 | | |
| 外国語科目 | 英 語 | 4 | 8 | |
| | 英語以外の外国語 | 4 | | |
| | 海外語学研修 | | | |
| 単 位 互 換 科 目 | | | | |
| 専 門 科 目 | 必 修 科 目 | 28 | 84 | |
| | 選 択 必 修 科 目 | 34 | | |
| | 選 択 科 目 | 22 | | |
| 自由選択修得要件単位 | | 20 | | |
| 卒 業 要 件 単 位 | | 124 | | |

[社会学科]

【外国人留学生】 人間科学部社会学科

| 区 分 | | 卒業要件単位 | | 備 考 |
|-------------|-------------|--------|----|---|
| 社会知性基盤科目 | S i 基礎科目 | 2 | 2 | ・自由選択修得要件単位には、所定の卒業要件単位数を超えて修得した社会知性基盤科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目、単位互換科目、所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目、資格課程の一部の科目、全学公開科目の単位が算入されます。 ・社会知性基盤科目の「データサイエンス入門」と教養科目の「あなたと自然科学」は必履修科目です。 |
| | S i 応用科目 | | | |
| 教 養 科 目 | 留学生専修科目 | 4 | 10 | |
| | 人文科学基礎科目 | 4 | | |
| | 社会科学基礎科目 | | | |
| | 自然科学系科目 | | | |
| | 保健体育系科目 | 2 | | |
| 外国語科目 | 日 本 語 | 8 | 8 | |
| | 母語以外の外国語 | | | |
| | 海外語学研修 | | | |
| 単 位 互 換 科 目 | | | | |
| 専 門 科 目 | 必 修 科 目 | 28 | 84 | |
| | 選 択 必 修 科 目 | 34 | | |
| | 選 択 科 目 | 22 | | |
| 自由選択修得要件単位 | | 20 | | |
| 卒 業 要 件 単 位 | | 124 | | |

[社会学科・外留]

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってください。

- ① 「社会知性基盤科目」で2単位以上、「教養科目」10単位以上、「外国語科目」8単位以上、「専門科目」84単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」20単位以上、合計124単位以上を修得する必要があります。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立ててください。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修してください。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましいです。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できません。また、一度に同一名称の科目を2つ以上履修することや、一部の科目を除き一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することはできません。

さらに具体的な履修方法について以下に詳説します。教養科目についてはpp.96～97の「人間科学部社会科学社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧」、専門科目についてはp.98の「人間科学部社会科学専門科目一覧」を参照しながら、カリキュラムの全体像を把握してください。

(1) 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目の履修方法

社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意してください。社会知性基盤科目はpp.37～41に、教養科目についてはpp.43～50に、外国語科目についてはpp.51～64、単位互換科目についてはp.66に詳しい説明があるので、参考にして以下を確認してください。

1) 社会知性基盤科目

① S i 基礎科目

「専修大学入門ゼミナール」は、1年次に履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。「データサイエンス入門」は、1年次の必修科目です。

上記以外の科目は選択として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 上記以外のS i 応用科目

上記以外のS i 応用科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

2) 教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の中から8単位履修し、修得してください。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なります。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1, 2年次にしか開講されていません。そのため、人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3, 4年次で履修できません。自然科学系科目は1年

次から4年次まで開講されています。自然科学系科目の「あなたと自然科学」は1年次の必修科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修できません。

8単位を超えて修得した人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

② 保健体育系科目

1年次に「スポーツリテラシー」, 「スポーツウェルネス」を履修し、必ず修得してください。修得できなかった場合は、再履修となります。

上記以外の保健体育系科目は選択科目として履修できます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

3) 外国語科目

① 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。A群のBasics of English (RL) 1a (前期), 1b (後期) またはIntermediate English (RL) 1a (前期), 1b (後期) の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a (前期), 1b (後期) またはIntermediate English (SW) 1a (前期), 1b (後期) の2科目を履修します。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, インドネシア語, コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得してください。初級1a (前期), 初級1b (後期) の2科目と、初級2a (前期), 初級2b (後期) の2科目を履修します。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができます。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

4) 単位互換科目

修得した単位は自由選択修得要件単位に算入されます。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目 (pp.99~100「人間科学部専門科目一覧」で○印のついた科目), 開講された科目の中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目 (◎印のついた科目), 多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目 (△印のついた科目), 人間科学部心理学科の一部専門科目「他学科専門科目」(#印のついている科目) の4通りがあります。

なお、科目の中には、年間を通して授業を行う通年科目と、半年で修了する半期科目とがあります。また、毎年開講する科目と隔年に開講する科目があります。履修計画を立てる上で、注意してください。

その上で、可能な範囲で出来るだけ多く履修し、幅広い学修を通して、総合的な視野を持つようにしてください。

A. 社会学科のカリキュラム編成の特徴

専門科目の履修方法を説明するにあたって、まず、社会学科のカリキュラム編成の特徴を簡単に示すと、次頁のようになります。

教育システム（カリキュラム編成）の特徴

(1) 主要研究・学修領域と専門学修分野

1) 基礎部門

① 社会学の基礎

社会学原論，社会調査の基礎，データ分析法実習

2) 専門領域

① 「文化・システム」系

現代社会論，比較社会論，現代文化論，ネットワーク・メディア論，社会意識論，教育と社会

② 「生活・福祉」系

生活の社会学，家族の社会学，仕事の社会学，学びの社会学，福祉の社会学，ケアの社会学，民俗学

③ 「地域・エリアスタディーズ」系

地域社会学A（地域社会変動），地域社会学B（環境・災害・コミュニティ），地域社会学C（エスニシティと都市），エリア・スタディーズA（グローバル都市論），エリア・スタディーズB（地域・国家・アイデンティティ）

(2) 教育方法

① ゼミナール教育の重視

専修大学入門ゼミナール（1年次前期必修）

専門入門ゼミナール（1年次後期必修）

専門ゼミナールA（研究テーマ別の演習 3年次必修）

専門ゼミナールB（専門ゼミナールAと連続で履修し研究を深化させ，卒業論文につなげる 4年次必修）

※ゼミナールに準じた科目，文献研究（2年次必修）および社会調査実習（3・4年次選択）もあります。

② 調査・実証教育の重視

実証研究の基礎であり社会学方法論の基礎となる「社会調査の基礎」（1年次必修）及び「調査設計と実施方法」（1～4年次選択）の設置

分析方法としての「データ分析法実習」（1年次必修）と「統計学実習」（2・3・4年次選択），「多変量解析法実習」（2・3・4年次選択），「質的分析法」（2・3・4年次選択）の設置

3年次または4年次において上記社会調査科目群の集大成として「社会調査実習」（3・4年次選択）の設置

※上記はすべて，社会調査士資格取得の際の必修科目となります。

③ 単位履修の柔軟性

他学科・他学部との単位の互換性を推進するため、卒業に必要な学科の専門科目の最低履修単位数を84単位とし、学際的に学べるようにするとともに、他方では社会学科の専門科目を104単位以上履修できるように科目設置し、専門を体系的により深く学ぶことも可能にしています。

④ 卒業論文の必修

本学社会学科で学修・研究したことの集大成としての論文執筆。

以上の特徴あるカリキュラム編成のもとで、社会学科に所属する学生は、次に示す研究・学修領域と専門学修分野を履修できます。

〈研究・学修領域と専門学修分野〉

(1) 基礎部門

社会学の歴史や理論，社会学的研究の方法，社会調査の理論と技法などを学び，社会学の基礎知識・社会学的思考を身につけます。

- ① 社会学原論 社会学の理論と社会学的思考法を学ぶ。
- ② 社会調査の基礎 社会学の方法論と社会調査の基礎を学ぶ。
- ③ 調査設計と実施方法 社会調査を実施するための技法を学ぶ。
- ④ データ分析法実習 データ分析の技法を学ぶ。

(2) 専門分野

1) 〈「文化・システム」系〉

経験的調査と社会理論，社会構造と社会意識を接続しながら，個人と社会の全体的解明を目指します。人びとの意識・文化とその背景にある社会構造との解明を目標に，調査，統計，文献を用いて実証的／理論的な社会学的方法によって現代社会を幅広く研究し，多角的視点から社会構造と行為の間の因果関係を分析的に理解し説明できる力を育成します。

- ① 現代社会論 現代社会の構造を規定している社会階層の動向をにらみながら，現代社会を全体的に論じてゆく専門分野。
- ② 比較社会論 社会システム，体制といったようなマクロな観点から社会構造と社会変動などを学んでいく専門分野。
- ③ 現代文化論 現代社会における変貌著しい文化のあり方を，社会構造や社会階層との関連で論じてゆく専門分野。国境を越えて広がるグローバルな文化論を学ぶ。
- ④ ネットワーク・メディア論 激変するメディア環境を主な対象とし，メディア・コミュニケーションに関する理論と実証研究の成果を学ぶ専門分野。
- ⑤ 社会意識論 個人レベルでの社会的相互行為論を，全体社会レベルでの社会構造論に接続させてゆく理論を学ぶ専門分野。

- ⑥ 教育と社会 子どもが育ちゆく過程や仕組みに注目しながら、社会の構造・価値観・諸問題について理論や事例を媒介にして学ぶ専門分野。

2) 「生活・福祉」系

生活の場としての「家庭と職場」、人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に、人間生活の基礎的単位とそのつながりや関係についての基本的な理解と実態的、事象的な把握を目指します。

- ① 生活の社会学 現代社会の現実を、生活構造やライフスタイルの側面から研究する専門分野。
- ② 家族の社会学 家族をめぐる諸現象の分析を通して、変貌する家族と家族の将来を研究する専門分野。
- ③ 仕事の社会学 労働の「意味」、職業をめぐる集団、労使関係、そして働く者の生活や意識、産業を中心とする地域構造の変化などを学ぶ専門分野。
- ④ 学びの社会学 学ぶとは人の本性である。生涯にわたるその学びを見つめ、善き学びを実現する方法と支援のあり方を人間科学の知見から探求する専門分野。
- ⑤ 福祉の社会学 社会福祉に関する諸問題と人々の生活、それに対応するサービスの歴史的展開と現状の分析をとおして、社会福祉のあり方を学ぶ専門分野。
- ⑥ ケアの社会学 現代社会における人々の生活問題、特に高齢者・その他の援助を必要とする人々の介護・ケアをめぐる諸問題とそれに対応する制度やサービスの政策的・実践的展開、現状の理解と分析をすることで、社会福祉の在り方を学ぶ専門分野。
- ⑦ 民俗学 民間伝承・知識を素材に「常民」の生活をたどり、日本社会の文化的・思想的根源と現代日本の生活・文化への「継続」を明らかにする専門分野。

3) 「地域・エリアスタディーズ」系

人びとの生活と、生活が営まれる地域に焦点を合わせた社会学の学修・研究を目標にします。現代の地域がグローバリゼーション過程におかれている現状を認識し、グローバル化のなかでの地域、都市の構造と変容の実証的、経験的な理解を目指します。

- ① 地域社会学A 地域社会のしくみと住民の生活への働きを理解し、その変動を人びとの共同の実践として捉えることをとおして、現代社会の変容を明らかにする専門分野。
- ② 地域社会学B 地域開発や災害などを契機とする劇的な生活変容としての「生活環境」の問題に焦点をあわせ、現代社会の問題を研究する専門分野。
- ③ 地域社会学C 都市に生ずる諸問題、生成するネットワークやコミュニティ、そして人びとの生き方などを手がかりに、現代社会の性格を学ぶ専門分野。
- ④ エリア・スタディーズA グローバル都市の問題を切り込み口に、グローバル化にともなうマイグレーション・ネットワークの形成、移住のプロセス、地域社会の多様化と統合の問題を研究する専門分野。
- ⑤ エリア・スタディーズB グローバル化にともなって生じる民族関係の変容やナショナルリズムの展開、国民国家の変容とアイデンティティ変容の問題を研究する専門分野。

これらの学び方については、諸分野のうちからひとつの分野を選び、それを集中的に学んだりやり方もあれば、また、特定分野を選びつつもその他の諸分野を横断するような課題を設定して研究・学修を進めるやり方もあります。いずれにせよ、ひとつの専門分野、問題を深めようとするれば、おのずから他の専門分野、他の諸科学の広い学修も不可欠になっていきます。それぞれが主体的な学修計画をたてることが望ましいです。

なお、社会学科で「社会調査士」の資格を取得するための独自のカリキュラムも用意しています（資格については、後述の「E. 社会学における資格取得について」を参照のこと）。

さらに深く社会学の諸領域に関する高度な研究・学修を望む人、あるいはより専門的な職業人を目指し教育を受けたいと望む人には、大学院で学ぶ道が開かれています。

B. 必修科目

社会学原論 1, 2 社会学の基本的なものの見方、考え方を学びます。これから社会学を学んでいこうとする学生にとってのイントロダクションとなる科目です。

社会調査の基礎 社会調査は、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつです。「社会調査の基礎」では、社会調査に関する基礎知識を修得し、具体的な方法を理解すると同時に、社会調査の根底に流れる社会学的思考法についても理解を深めます。

文献研究 2年次で、「文献研究」を履修しなければなりません。少人数の演習形式による授業であり、ゼミナールに準ずる重要な科目です。

文献研究は、主として社会学の学修全般に必要な基礎概念や方法、テーマ等に関する基本的な知識、考え方を体得するために、特に社会学の古典として評価された文献の講読を行います。

ゼミナール テキストの講読・討論、あるいは各自のテーマ別学修の報告・討論などの形式により、特定問題についての研究を、原則として少人数で行います。

- ① **専門入門ゼミナール** 文献の読み方や発表の仕方などの具体的な学修方法を含めた大学での基本的な研究・学修スタイルを身に付けたり、社会学への興味や関心を呼び起こし、今後の研究・学修の助走をつけることを目指す、新入学生のための科目です。
- ② **専門ゼミナールA** 専門科目群の1年次の「専門入門ゼミナール」や、2年次の「文献研究」、講義等で学んだことを基礎に、個々人が最も関心を持つ社会学の領域・分野を決定し、それを専門的に研究していくためのゼミナールです。各人の興味関心に沿って、開講されているゼミナール群からひとつを選択します。なお、この科目は、後述の卒業論文の作成のための研究を主とする「専門ゼミナールB」と連続するので、各人のテーマに沿って慎重に選んでください。
- ③ **専門ゼミナールB** 「専門ゼミナールA」と連続している科目であり、3年次で学修・研究したことを基礎に、大学生活の集大成として、担当教員の指導のもとで論文作法を学びつつ、卒業論文を書くための文献講読や調査結果のとりまとめを行います。
- ④ **卒業論文** 社会学科に所属する学生は、4年次で、大学における学修・研究の総決算として「卒業論文」を執筆することが義務づけられています。卒業論文の提出は、「専門ゼミナール

B」の履修が要件になっています。なお、卒業論文は、所定の期日までに提出し、論文に関する口述試験に合格しなくてはなりません（卒業論文については p. 31 参照）。

必修科目のとり方として、「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」はそれぞれ、同一年次に同じ名称の科目を複数履修することはできません。さらに、「専門ゼミナールB」の履修は「専門ゼミナールA」の単位を修得した上でないと認められません、また、「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」を同一年次に同時履修することも認められませんので、注意してください。

ただし、特例として、3年次で協定校へ留学した場合には、4年次での「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」の同時履修と卒業論文の提出を認めます。

C. 選択必修科目

専門講義科目 2・3・4年次では、社会学をさらに専門的に学んでいく上に必要な基礎領域の専門講義科目が36科目、選択必修科目として置かれています。社会学科の学生は、これらの科目群のうち、17科目34単位以上を必ず履修しなければなりません。また、専門分野の科目には必ず「専門ゼミナールA・B」と「卒業論文」作成が連動することになります。

D. 選択科目

社会調査実習 社会調査は、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要な研究方法のひとつであり、3・4年次に社会調査科目群の集大成として「社会調査実習」が置かれています。実習科目は、通年で行われる「授業」と主に夏期休暇中に行われる「実査」とがセットになっており、履修者は、必ずこの双方に出席しなければなりません。なお、「実査」にかかる交通費・宿泊費の費用は自己負担となっています。

前述のように社会学は、幅広い対象領域を含むものであるから、自らのテーマを明確にし、それを中心に関連する科目を自主的、計画的に選択することが望まれます。

E. 社会学における資格取得について

社会調査士資格の取得について

2004年度から社会調査協会によって、「社会調査士」の資格が認定されています。現在社会学科に設置してある「社会調査士資格関連科目（以下、「資格関連科目」とする）」を履修することによって、「社会調査士」資格を申請する条件を整えることができます。

① 社会調査とはなにか

社会調査は社会学では不可欠の現実認識の手段ですが、現在では社会学という学問分野を超えて官公庁、企業活動など社会と密接なかかわりをもつ領域においても注目されている方法です。国や地方自治体が行う「国勢調査」や「消費動向調査」、新聞社やテレビ局が行う「世論調査」や「政党支持率調査」、企業が行う「市場調査」や「需要予測調査」など、行政の政策・計画立案、企業活動の方針・計画決定などになくてはならないものになりつつあります。

② 社会調査士とは

社会調査士とは、以上のような社会的要請に応えられる人材の能力に対して、社会調査協会（日本社会学会をはじめとする諸学会が設立した一般社団法人）が、その調査能力について、資格関連科目を履修したことをふまえて認定するものです。社会調査士には、さまざまな調査を企画、実施、集計・分析し、調査レポートの取りまとめやプレゼンテーションなどをする、社会調査実務担当者としての十分な能力が必要とされます。なお、資格関連科目とは、社会調査協会の定める標準カリキュラム科目（⑤を参照）に対応しているものであり、協会によって資格取得条件として認定された科目のことです。

③ 社会調査士資格取得のメリットと注意点

社会調査士資格は、今後官公庁、企業などにおいて実務担当者の能力の一環を示すものとして認知されていく可能性が高いです。しかし同時に、資格認定はその実力を示すものでなくてはならず、単に科目を履修すればよいというものではなく、はっきりとした目的意識をもって積極的に学んだものに与えられるべきものです。

したがって調査士の資格を取得しようとするものは相応の覚悟と努力で勉学に臨む必要があります。

④ 社会調査士資格の取得方法

社会調査士の資格の取得は、以下のように二通りの方法があります。一つは、資格取得希望者が、社会調査協会の定める標準カリキュラムに対応した学内の資格関連科目を修得して、卒業時に必要書類を揃えて申請する方法。もう一つは、この資格を就職活動に活用するためなどのために、社会調査協会の指定する一定の要件を満たして大学在籍中の2～3年時に「社会調査士（キャンディデイト：取得候補者）」を申請・取得した上で、大学卒業時に資格変更申請を行って正式な認定証の交付を受ける方法です。詳細は、社会調査協会のホームページ（<https://jasr.or.jp/>）を参照してください。これらの手続については、社会学科でガイダンスを実施して詳しく説明するので、社会学科の掲示板を確認してください。

⑤ 社会調査士資格関連科目（カッコ内A～Fが社会調査協会の定める標準カリキュラム科目の名称です。資格の申請にはA～DおよびGの5科目と、EとFのいずれかの1科目の計6科目の単位取得が必要です。）

「社会調査の基礎」（A.「社会調査の基本事項に関する科目」）

「調査設計と実施方法」（B.「調査設計と実施方法に関する科目」）

「データ分析法実習」（C.「基本的な資料とデータ分析に関する科目」）

「統計学実習」（D.「社会調査に必要な統計学に関する科目」）

「多変量解析法実習」（E.「多変量解析の方法に関する科目」）

「質的分析法」（F.「質的な調査と分析の方法に関する科目」）

「社会調査実習」（G.「社会調査を実際に経験し学習する科目」）

⑥ 履修モデル

望ましい履修モデルを示せば、次の通りとなります。

- | | | |
|------|-----------------|-------------|
| 1年次で | ・「社会調査の基礎」(A) | (1年次必修科目) |
| | ・「調査設計と実施方法」(B) | (1～4年次選択科目) |
| | ・「データ分析法実習」(C) | (1年次必修科目) |
| 2年次で | ・「統計学実習」(D) | (2～4年次選択科目) |
| | ・「質的分析法」(F) | (2～4年次選択科目) |
| 3年次で | ・「多変量解析法実習」(E) | (2～4年次選択科目) |
| | ・「社会調査実習」(G) | (3～4年次選択科目) |

社会調査士に関する詳しい情報は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp>) を確認してください。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに履修する科目の総称です。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは、以下の8つになります。

- 社会知性基盤科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- 教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- 外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- 単位互換科目の単位。
- 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した社会学科開講の専門科目の単位。
- 社会学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- 教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。(8単位まで、詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- 社会学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。(20単位まで)

「自由選択修得要件単位となる科目」は、の科目区分にとらわれず、自由に履修する科目です。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでください。なお、「卒業要件単位」(計124単位)は卒業に必要な最低限の学修であり、より裾野を広げた学修を主体的に組んでゆくことが期待されます。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

「必修科目」の単位を指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修してください。なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできません。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

「選択必修科目」および「選択科目」の単位を修得できなかった場合は、翌年次以降に同一名称の科目を「再履修」できます。必ずしも同一名称の科目を「再履修」せずに、選択科目群内の別の科目の単位を修得して「卒業要件」を充たすことも可能です。

人間科学部社会科学 社会知性基盤科目、教養科目、外国語科目、単位互換科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は2単位）。

| 区分 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 卒業要件単位 | 備考 |
|------------|----------------------------------|----------------------------------|--|------------------|--------|---|
| 社会知性基盤科目 | 専修大学入門セミナー | | | | 2 | ・分野横断科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます（同年度での複数履修も可能）。 ・S iゼミナール論文は、S iゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員のS iゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 |
| | データサイエンス入門 | | | | | |
| | データサイエンス実践 | | | | | |
| | | A1基礎 | | | | |
| | | データサイエンス活用演習 | | | | |
| | キャリア入門 | | | | | |
| | キャリアマッチング | | | | | |
| | キャリア長期体験（プロジェクト型） | | | | | |
| | | キャリア科目1 | | | | |
| | | キャリア科目2 | | | | |
| | グローバルスタディ (1) | グローバルスタディ | グローバルスタディ (3) | グローバルスタディ (4) | | |
| S i応用科目 | | 分野横断科目 | | | | |
| | | S iゼミナール1 (4) | S iゼミナール2 (4) | S iゼミナール3 (4) | | |
| | | | S iゼミナール論文 | | | |
| 人文科学基礎科目 | 日本の文化 | 歴史と地域・民衆 | 論理学入門 | | | ・卒業要件単位10単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 ・アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができません。 ・アドバンストスポーツの履修は、半期1科目を上限とし、次学期以降も履修目にかかわらず履修することができます（修得単位の上限はありません）。 |
| | 日本の文学 | 歴史と社会・文化 | ことばと論理 | | | |
| | 世界の文学 | 基礎心理学入門 | 芸術学入門 | | | |
| | 文学と現代世界 | 応用心理学入門 | 異文化理解の人類学 | | | |
| 社会科学基礎科目 | 英語圏文学への招待 | 哲学 | ジャーナリズムと現代 | | | |
| | 歴史の視座 | 倫理学 | | | | |
| 社会科学基礎科目 | 日本国憲法 | 地理学への招待 | はじめての経営 | | | |
| | 法と社会 | 社会科学論 | マーケティングベーシックス | | | |
| 自然科学系科目 | 政治学入門 | 社会思想 | 企業と会計 | | | |
| | 政治の世界 | 教育学入門 | | | | |
| 保健体育系科目 | 経済と社会 | 子どもと社会の教育学 | | | | |
| | 現代の経済 | 情報社会 | | | | |
| 自然科学系科目 | あなたと自然科学 | | | | | |
| | 自然科学実験演習1 | 生物科学C1 | 化学A1 | 物理学B1 | 数理学C1 | |
| 保健体育系科目 | 自然科学実験演習2 (4) | 生物科学C2 | 化学A2 | 物理学B2 | 数理学C2 | |
| | 生物科学A1 | 宇宙地球科学A1 | 化学B1 | 数理学A1 | 科学論A1 | |
| 保健体育系科目 | 生物科学A2 | 宇宙地球科学A2 | 化学B2 | 数理学A2 | 科学論A2 | |
| | 生物科学B1 | 宇宙地球科学B1 | 物理学A1 | 数理学B1 | 科学論B1 | |
| 保健体育系科目 | 生物科学B2 | 宇宙地球科学B2 | 物理学A2 | 数理学B2 | 科学論B2 | |
| | スポーツリテラシー (1) | | | | | |
| 保健体育系科目 | スポーツウェルネス (1) | | | | | |
| | | アドバンストスポーツ | スポーツ論 (サステイナブルスポーツ) | | | |
| 英語 | | スポーツ論 (ウェルビーイング) | スポーツ論 (ハイパフォーマンススポーツ) | | | |
| | Basics of English (RL) 1a (1) | | | | | |
| 英語 | Basics of English (RL) 1b (1) | | | | | |
| | または | | | | | |
| 英語 | Intermediate English (RL) 1a (1) | | | | | |
| | Intermediate English (RL) 1b (1) | | | | | |
| 英語 | Basics of English (SW) 1a (1) | | | | | |
| | Basics of English (SW) 1b (1) | | | | | |
| 英語 | または | | | | | |
| | Intermediate English (SW) 1a (1) | | | | | |
| 英語 | Intermediate English (SW) 1b (1) | | | | | |
| | General English (1) | | | | | |
| 英語 | English Speaking a (1) | Computer Aided Instruction a (1) | Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) | | | |
| | English Speaking b (1) | Computer Aided Instruction b (1) | Computer Aided Instruction for TOEIC b (1) | | | |
| 英語 | | Advanced English a | English Presentation a | | | |
| | | Advanced English b | English Presentation b | | | |
| 英語 | | English Language and Cultures a | English Writing a | | | |
| | | English Language and Cultures b | English Writing b | | | |
| 英語以外の外国語 | ドイツ語初級1 a (1) | | | | | |
| | ドイツ語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | ドイツ語初級2 a (1) | | | | | |
| | ドイツ語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | フランス語初級1 a (1) | | | | | |
| | フランス語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | フランス語初級2 a (1) | | | | | |
| | フランス語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | 中国語初級1 a (1) | | | | | |
| | 中国語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | 中国語初級2 a (1) | | | | | |
| | 中国語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | スペイン語初級1 a (1) | | | | | |
| | スペイン語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | スペイン語初級2 a (1) | | | | | |
| | スペイン語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | ロシア語初級1 a (1) | | | | | |
| | ロシア語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | ロシア語初級2 a (1) | | | | | |
| | ロシア語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | インドネシア語初級1 a (1) | | | | | |
| | インドネシア語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | インドネシア語初級2 a (1) | | | | | |
| | インドネシア語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | コリア語初級1 a (1) | | | | | |
| | コリア語初級1 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | コリア語初級2 a (1) | | | | | |
| | コリア語初級2 b (1) | | | | | |
| 英語以外の外国語 | ドイツ語中級1 a (1) | 中国語中級1 a (1) | ロシア語中級1 a (1) | コリア語中級1 a (1) | | |
| | ドイツ語中級1 b (1) | 中国語中級1 b (1) | ロシア語中級1 b (1) | コリア語中級1 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | ドイツ語中級2 a (1) | 中国語中級2 a (1) | ロシア語中級2 a (1) | コリア語中級2 a (1) | | |
| | ドイツ語中級2 b (1) | 中国語中級2 b (1) | ロシア語中級2 b (1) | コリア語中級2 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | フランス語中級1 a (1) | スペイン語中級1 a (1) | インドネシア語中級1 a (1) | | | |
| | フランス語中級1 b (1) | スペイン語中級1 b (1) | インドネシア語中級1 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | フランス語中級2 a (1) | スペイン語中級2 a (1) | インドネシア語中級2 a (1) | | | |
| | フランス語中級2 b (1) | スペイン語中級2 b (1) | インドネシア語中級2 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | | | ドイツ語上級1 a (1) | ロシア語上級1 a (1) | | |
| | | | ドイツ語上級1 b (1) | ロシア語上級1 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | | | フランス語上級1 a (1) | インドネシア語上級1 a (1) | | |
| | | | フランス語上級1 b (1) | インドネシア語上級1 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | | | 中国語上級1 a (1) | コリア語上級1 a (1) | | |
| | | | 中国語上級1 b (1) | コリア語上級1 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | | | スペイン語上級1 a (1) | | | |
| | | | スペイン語上級1 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | | | 選択ドイツ語1 a (1) | 選択イタリア語1 a (1) | | |
| | | | 選択ドイツ語1 b (1) | 選択イタリア語1 b (1) | | |
| 英語以外の外国語 | | | 選択フランス語1 a (1) | | | |
| | | | 選択フランス語1 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | | | 選択中国語1 a (1) | | | |
| | | | 選択中国語1 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | | | 選択アラビア語1 a (1) | | | |
| | | | 選択アラビア語1 b (1) | | | |
| 英語以外の外国語 | 世界の言語と文化 (ドイツ語) | 世界の言語と文化 (中国語) | 世界の言語と文化 (ロシア語) | 世界の言語と文化 (コリア語) | | |
| | 世界の言語と文化 (フランス語) | 世界の言語と文化 (スペイン語) | 世界の言語と文化 (インドネシア語) | | | |
| 英語以外の外国語 | | 言語文化研究 (ヨーロッパ) | 言語文化研究 (アジア) | 言語文化研究 (アメリカ) | | |
| | | | | | | |
| 海外語学研修 | 海外語学短期研修1 (外国語) | 海外語学短期研修2 (外国語) | | | | |
| | | | | | | |
| 海外語学研修 | 海外語学中期研修1 (外国語) | 海外語学中期研修2 (外国語) | 海外語学中期研修4 (外国語) | 海外語学中期研修7 (外国語) | | |
| | 海外語学中期研修2 (外国語) | 海外語学中期研修3 (外国語) | 海外語学中期研修5 (外国語) | 海外語学中期研修8 (外国語) | | |
| 単位互換科目 | 単位互換1 | 単位互換2 (4) | 単位互換3 (1) | | | |
| | | | | | | |
| 自由選択修得要件単位 | | | | | 20 | |

社会科学

人間科学部専門科目一覧

心理学科専門科目一覧

| 科目名 | 単位 | 配当年次 | | ○:必修 ◎:選択必修 △:選択 #:自由選択修得要件単位 | |
|---------------------|----|------|----|--|----|
| | | 心理 | 社会 | 心理 | 社会 |
| 心理学基礎実験1(心理学実験) | 2 | 1 | | ○ | / |
| 心理学概論 | 2 | 1 | 1 | ○ | # |
| 臨床心理学概論 | 2 | 1 | 1 | ○ | # |
| 心理学データ解析1(心理学統計法) | 1 | 1 | | ○ | / |
| 心理学データ解析2 | 1 | 1 | | ○ | / |
| 心理学基礎実験2 | 4 | 2 | | ○ | / |
| 心理学実験演習1 | 4 | 3 | | ○ | / |
| 心理学講読1 | 4 | 3 | | ○ | / |
| 心理学実験演習2 | 4 | 4 | | ○ | / |
| 卒業論文 | 8 | 4 | | ○ | / |
| 心理学コンピュータ実習1 | 2 | 12 | | ◎ | / |
| 心理学コンピュータ実習2 | 2 | 12 | | ◎ | / |
| 心理学研究法 | 2 | 12 | | ◎ | / |
| 知覚心理学1 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 知覚心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 認知心理学1(知覚・認知心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 認知心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 学習心理学1(学習・言語心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 学習心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 生理心理学1 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 生理心理学2(神経・生理心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 発達心理学1(発達心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 発達心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 社会心理学1 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 社会心理学2(社会・集団・家族心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 人格心理学1(感情・人格心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 人格心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 臨床心理学1(心理学的支援法) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 臨床心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 犯罪心理学1(司法・犯罪心理学) | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| 犯罪心理学2 | 2 | 23 | 23 | ◎ | # |
| リハビリテーション心理学 | 2 | 23 | | ◎ | / |
| 発達臨床心理学1 | 2 | 23 | 34 | ◎ | # |
| 心理測定学 | 2 | 34 | | ◎ | / |
| ベイズ統計学 | 2 | 34 | | ◎ | / |

| 科目名 | 単位 | 配当年次 | | ○:必修 ◎:選択必修 △:選択 #:自由選択修得要件単位 | |
|--------------------|----|------|----|--|----|
| | | 心理 | 社会 | 心理 | 社会 |
| 障害者・障害児心理学 | 2 | 34 | 34 | ◎ | # |
| 応用行動分析学 | 2 | 34 | 34 | ◎ | # |
| 心理カウンセリング | 2 | 34 | 34 | ◎ | # |
| 福祉心理学 | 2 | 34 | 34 | ◎ | # |
| 発達臨床心理学2 | 2 | 34 | 34 | ◎ | # |
| 心理的アセスメント | 2 | 34 | | ◎ | / |
| 心理学講読2 | 4 | 4 | | ◎ | / |
| 公認心理師の職責 | 2 | 1234 | | △ | / |
| 人体の構造と機能及び疾病 | 2 | 1234 | | △ | / |
| 関係行政論 | 2 | 1234 | | △ | / |
| 基礎心理学特殊講義A | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義B | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義C | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義D | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義E | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義F | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義G | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義H | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義I | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 基礎心理学特殊講義J | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学特殊講義K | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学特殊講義L | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学特殊講義M | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学特殊講義N(健康・医療心理学) | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学特殊講義O(産業・組織心理学) | 2 | 34 | | △ | / |
| 心理学特殊講義P(教育・学校心理学) | 2 | 34 | | △ | / |
| 精神医学1(精神疾患とその治療) | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 精神医学2 | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学の思想と歴史1 | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 心理学の思想と歴史2 | 2 | 34 | 34 | △ | # |
| 情報処理心理学実習1 | 2 | 34 | | △ | / |
| 情報処理心理学実習2 | 2 | 34 | | △ | / |
| 心理演習 | 2 | 3 | | △ | / |
| 心理実習 | 2 | 4 | | △ | / |
| 特殊講義 | 1 | 34 | | △ | / |

社会学科専門科目一覧

| 科目名 | 単位 | 配当年次 | | ○:必修 ◎:選択必修 △:選択 #:自由選択修得要件単位 | |
|---------------|----|------|------|--|----|
| | | 心理 | 社会 | 心理 | 社会 |
| 専門入門ゼミナール | 2 | | 1 | | ○ |
| 社会学原論1 | 2 | 1 | 1 | # | ○ |
| 社会学原論2 | 2 | 1 | 1 | # | ○ |
| 社会調査の基礎 | 2 | 1 | 1 | # | ○ |
| データ分析法実習 | 2 | | 1 | | ○ |
| 文献研究 | 2 | | 2 | | ○ |
| 現代社会論1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 現代社会論2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 比較社会論1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 比較社会論2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 現代文化論1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 現代文化論2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| ネットワーク・メディア論1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| ネットワーク・メディア論2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 社会意識論1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 社会意識論2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 教育と社会1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 教育と社会2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 生活の社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 生活の社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 家族の社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 家族の社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 仕事の社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 仕事の社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 学びの社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 学びの社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 福祉の社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 福祉の社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| ケアの社会学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| ケアの社会学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 民俗学1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 民俗学2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学A-1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学A-2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学B-1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学B-2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学C-1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 地域社会学C-2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| エリア・スタディーズA-1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| エリア・スタディーズA-2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| エリア・スタディーズB-1 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| エリア・スタディーズB-2 | 2 | 234 | 234 | # | ◎ |
| 専門ゼミナールA | 4 | | 3 | | ○ |
| 専門ゼミナールB | 4 | | 4 | | ○ |
| 卒業論文 | 8 | | 4 | | ○ |
| 社会調査実習 | 4 | | 34 | | △ |
| 調査設計と実施方法 | 2 | 1234 | 1234 | # | △ |
| 経済学概論1 | 2 | 23 | 23 | # | △ |
| 経済学概論2 | 2 | 23 | 23 | # | △ |

| 科目名 | 単位 | 配当年次 | | ○:必修 ◎:選択必修 △:選択 #:自由選択修得要件単位 | |
|------------|----|------|-----|--|----|
| | | 心理 | 社会 | 心理 | 社会 |
| 現代経済論1 | 2 | 23 | 23 | # | △ |
| 現代経済論2 | 2 | 23 | 23 | # | △ |
| 統計学実習 | 2 | | 234 | | △ |
| 多変量解析法実習 | 2 | | 234 | | △ |
| 質的分析法 | 2 | | 234 | | △ |
| 社会運動論1 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会運動論2 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会政策論1 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会政策論2 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会保障論1 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会保障論2 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 地方自治論 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 国際協力論 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 多文化共生国際社会論 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 地球環境問題 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 言論法 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| ジャーナリズムの倫理 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| ポップカルチャー論 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 宗教学1 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 宗教学2 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 心の哲学 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 社会の哲学 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 日本史1 | 2 | | 1 | | △ |
| 日本史2 | 2 | | 1 | | △ |
| 外国史1 | 2 | | 1 | | △ |
| 外国史2 | 2 | | 1 | | △ |
| 日本史概説1 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 日本史概説2 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| アジア史概説1 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| アジア史概説2 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 欧米史概説1 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 欧米史概説2 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 自然地理学概論1 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 自然地理学概論2 | 2 | 12 | 12 | # | △ |
| 人文地理学概論1 | 2 | | 12 | | △ |
| 人文地理学概論2 | 2 | | 12 | | △ |
| 憲法1 | 2 | 23 | 23 | # | △ |
| 憲法2 | 2 | 23 | 23 | # | △ |
| 社会学思想史 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 日本社会史 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 地域研究概論 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| ジェンダー史1 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| ジェンダー史2 | 2 | 234 | 234 | # | △ |
| 日本経済史1 | 2 | 34 | 34 | # | △ |
| 日本経済史2 | 2 | 34 | 34 | # | △ |
| 特殊講義 | 1 | | 34 | | △ |

第4章

資格課程について

- I 教 職 課 程
- II 司書・司書教諭・学校司書課程
- III 学 芸 員 課 程
- IV 大学院教職課程
- V 科目等履修生

資格課程について

I. 教職課程

本学では、中学校および高等学校の「教育職員免許状」（以下「免許状」という）を取得することを希望する学生のために、教職課程を設置しています。

現在の法律では、原則として免許状を取得していないものは教職に就くことができませんので、将来教職に就く意思のある学生は、教職課程を履修し、免許状を取得してください。

本学で免許状を取得するためには、原則として3年間以上教職課程の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。教職課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。

また、修得科目・修得単位は学部・学科によって異なります。詳細については、履修初年度のガイダンスで配布する「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照してください。

なお、教職課程を履修する場合は履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。

取得できる免許状は次のとおりです。

| 学 部 | 学 科 | 種 類 ・ 教 科 | |
|-----------|---------|------------------------|--------------------------|
| | | 中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 | 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 |
| 人 間 科 学 部 | 心 理 学 科 | 社会 | 公民 |
| | 社 会 学 科 | 社会 | 地理歴史, 公民 |

Ⅱ. 司書・司書教諭・学校司書課程

司書課程は、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の資料室などで、資料や情報を収集・整理し、これらを利用者に対して適切に提供する専門職（司書）の養成を目的としています。

司書教諭課程は、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職（司書教諭）の養成を目的としています。なお、司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭課程の履修と併せて、教職課程を履修し、教育職員免許状を取得しなければなりません。

学校司書課程は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理や提供および授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について、司書教諭と協働しながら従事する学校司書の養成を目的としています。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上、司書課程の授業を履修し、15科目30単位以上を修得しなければなりません。また、司書教諭については5科目10単位以上、学校司書については13科目26単位を修得しなければなりません。

司書、司書教諭、学校司書課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」も併せて参照してください。

なお、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程を履修する場合は履修初年度に各課程の受講料を納入する必要があります。

Ⅲ. 学芸員課程

学芸員課程は、博物館、美術館、歴史資料館、考古資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館、科学館等に勤務し、その事業の目的を達成するために、資料の収集、保管、展示および調査研究、その他これに関連する事業についての専門的事項を司る専門職員を養成することを目的としています。

本学で学芸員の資格を取得するためには、原則として2年間以上、学芸員課程の科目を履修し、13科目27単位以上を修得しなければなりません。

学芸員課程の履修方法等は、年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。また、履修初年度のガイダンスで配布する「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」も併せて参照してください。

なお、学芸員課程を履修する場合は履修初年度に、学芸員課程受講料を納入する必要があります。

IV. 大学院教職課程

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細は教務課資格課程事務室（生田）または教務課資格課程窓口（神田校舎）で確認してください。

V. 科目等履修生

在学中の単位不足等により本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は、科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし、科目等履修生となるためには、前年度の2月中旬～下旬に出願し、面接選考のうえ、合格した場合に限り許可されます。

なお、詳細については、教務課資格課程窓口（神田校舎）へお問い合わせください。

付 録

- I 専修大学履修規程
- II 専修大学定期試験規程
- III 定期試験における不正行為者処分規程

I 専修大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第4条第4項の規定に基づき、専修大学（以下「本学」という。）における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の種類)

第2条 授業科目の種類は、次のとおりとする。

- (1) 必修科目 当該学部・学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。
- (2) 選択科目 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する授業科目（選択必修科目及び必履修科目を含む。）をいう。
- (3) 自由科目 履修することはできるが、修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

(履修方法)

第3条 各学部・学科並びに教職課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程及び学芸員課程（以下「資格課程」という。）において履修する授業科目は、入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い、学生本人が決定するものとする。

(単位数及び授業科目)

第4条 各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は、別表第1から別表第3まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

(履修登録)

第5条 授業科目の履修登録は、前期及び通年の授業科目（後期の授業科目のうち、前期に履修登録することが必要な授業科目を含む。）にあつては前期履修科目登録期間、後期の授業科目にあつては後期履修科目登録期間に行うものとする。

(スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録)

第6条 スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「SWP学修ガイドブック」に定めるところによる。

(資格課程科目の履修登録)

第7条 教職課程科目は、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料、実習料等を納入することにより履修することができる。

- 2 司書課程科目及び司書教諭課程科目は、司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 3 学校司書課程科目は、学校司書課程を修了しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 4 学芸員課程科目は、学芸員の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。
- 5 資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

(履修上限単位数)

第8条 1年間に履修登録することができる履修上限単位数は、各学部・学科が別に定めるところによる。

2 履修上限単位数には、再履修科目の単位を含めるものとし、次に掲げる単位を含めないものとする。

(1) 海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位

(2) 資格試験により認定される単位

(3) 専修大学科目等履修生(付属高等学校生徒)として履修し、本学に入学した後、単位認定される授業科目の単位

(4) 資格課程科目として履修する授業科目の単位

(履修登録することができない授業科目)

第9条 教養科目及び外国語科目の授業科目のうち、外国人留学生のために開講する授業科目は、外国人留学生以外の学生は、履修登録することができない。

2 前項の授業科目を履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(再度の履修登録の禁止)

第10条 既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、再び履修登録することができない。

2 再び履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(重複した履修登録の禁止)

第11条 履修する年度において、同一の履修期間、曜日及び時限に行われる授業科目は、重複して履修登録してはならない。

2 重複して履修登録した場合は、いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

(履修登録の修正、削除、追加及び変更)

第12条 履修登録の修正、削除、追加及び変更は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、履修科目登録期間及び履修修正期間に限り認めるものとする。ただし、当該期間以外の期間であっても特別の理由があると認められる場合は、履修登録の修正、削除、追加及び変更を認めることができる。

2 あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については、原則として、履修クラスの変更を認めないものとする。

3 履修者制限が行われた授業科目で、一旦履修を許可されたものについては、原則として、その削除及び変更を認めないものとする。

(履修の中止)

第13条 履修を継続する意思のない授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、所定の履修中止申請期間に、所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

2 履修の中止については、次に定めるところにより取り扱うものとする。

(1) 履修を中止した授業科目は、授業への出席、定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。

(2) 履修を中止した授業科目の単位は、当該年度の履修上限単位数に含める。

- (3) 履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。
- (4) 履修を中止した授業科目は、GPA 及び平均点に算入しない。
- (5) 履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は、履修中止申請を認めない。
- (6) 履修中止申請は、取り下げることができない。

(単位の修得)

第 14 条 履修登録を行わない授業科目については、単位を修得することができない。ただし、履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については、この限りでない。

(事務所管)

第 15 条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第 16 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

[中略]

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第 3 の規定は、令和 6 年度以後の入学者について適用し、令和 5 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第 1 (第 4 条関係) 略

別表第 2 (第 4 条関係) 略

別表第 3 (第 4 条関係) 略

Ⅱ 専修大学定期試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条第3項の規定に基づき、試験の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- (4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実施の時期を変更することがある。

- (1) 前期試験 7月～8月
- (2) 後期試験 1月～2月
- (3) 前期追試験 8月
- (4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 試験監督は、当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて補助者を加えることがある。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(試験委員)

第7条 試験の実施に際し、試験委員を置く。

- 2 試験委員は、試験の実施を統轄する義務と権限を有する。
- 3 試験委員は、教授会の承認を得て、学長が委嘱する。
- 4 試験委員は、試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- (1) 履修科目登録の手続
 - (2) 学費の納入手続
 - (3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号に該当する者については、定期試験における不正行為者処分規程の定めるところによる。

- (1) 学生証を携帯していない者
 - (2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - (3) 試験監督者の指示に従わない者
 - (4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、教務部教務課の窓口に出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| (2) 就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| (3) 業務命令による出張又は超過勤務 | 所属長による証明書 |
| (4) 公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |
| (5) 天災その他の災害 | 被災を証明するもの |

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| (6) 二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| (7) 本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| (8) 交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| (9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項 | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |
- (成績発表)

第11条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第12条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- (3) 学生証を机上に提出すること。
- (4) 解答にさきだって、学籍番号及び氏名を記入すること。
- (5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- (6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- (7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- (8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第13条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- (2) 第9条に該当する者の答案
- (3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- (4) 不正行為に該当する者の答案
- (5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第14条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- (1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)
- (2) 答案を交換したとき。
- (3) カンニングペーパーを廻したとき。
- (4) カンニングペーパーを使用したとき。
- (5) 所持品(電子機器を含む。)その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- (6) 他人の答案を写したとき。(見た者・見せた者)
- (7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。(連絡した者・連絡を受けた者)
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- (9) 他人の学生証で受験したとき。(貸した者・借りた者)

- (10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- (11) 故意による答案無記名のとき。
- (12) 答案を提出しなかったとき。
- (13) 使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

(不正行為の確認)

第15条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

2 試験委員は、学生部委員の立ち合いのもとに、不正行為の事実確認を行う。

3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

(不正行為者の処分)

第16条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

(規程の改廃)

第17条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

〔中略〕

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

Ⅲ 定期試験における不正行為者処分規程

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第16条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- | | |
|---|--|
| (1) 代人受験（依頼した者・受験した者） | 2ヶ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (2) 答案交換 | 第1号に同じ |
| (3) カンニングペーパー廻し | けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (4) カンニングペーパーの使用 | 第3号に同じ |
| (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等） | 第3号に同じ |
| (6) 答案を写す（見た者・見せた者） | 第3号に同じ |
| (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者） | 第3号に同じ |
| (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用 | 第3号に同じ |
| (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者） | 第3号に同じ |
| (10) 偽名又は氏名抹消 | 第3号に同じ |
| (11) 故意による無記名 | 第3号に同じ |
| (12) 答案不提出 | 第3号に同じ |
| (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者） | けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。 |
| (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合 | 第1号から第13号に準じて処分する。 |

2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

〔中略〕

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2026 人間科学部学修ガイドブック

令和8年4月1日

編集・発行 専修大学人間科学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL 044-911-7191 (ダイヤルイン)

